令和元年東日本台風災害

丸森町災害ボランティアセンター運営報告書

～いぐいぐ丸森!! みんなの絆～

社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会

令和元年東日本台風災害
丸森町災害ボランティアセンター運営報告書
～いぐいぐ丸森!! みんなの絆～
社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会

目　　次

はじめに　社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会　会長　大槻　　茂 …… 1
発刊に寄せて　丸森町長　保科　郷雄 …… 2

１　被害状況について …… 3

２　災害ボランティアセンターの運営について …… 7
丸森町災害ボランティアセンター開設 …… 8
丸森町災害ボランティアセンター運営体制図 …… 10
丸森町災害ボランティアセンター各班の役割と活動 …… 12
丸森町災害ボランティアセンター運営実績 …… 15
丸森町災害ボランティアセンター運営・活動支援団体 …… 26
丸森町災害ボランティアセンター収支精算書 …… 29
河北新報記事（2019.10.16朝刊・2019.10.20朝刊） …… 30

３　災害時の支援体制について …… 31

４　支援物資・支援金等提供者ご芳名 …… 35
災害ボランティアセンター開設に係る土地・建物の提供一覧 …… 36
支援物資・支援金等提供一覧 …… 37

５　災害ボランティア活動の振り返り …… 41
令和元年東日本台風振り返り会 …… 42
活動風景の写真等 …… 52
むすびに …… 67
社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会　常務理事兼事務局長　谷津　俊幸

はじめに

社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会

会 長 大 槻　　茂

令和元年10月12日から翌13日にかけて東日本を襲った令和元年東日本台風は、広範囲にわたり大きな被害をもたらしました。丸森町では、河川の堤防決壊や越水、山間部での土砂崩れ等により、災害関連死を含む11名の尊い命が奪われ、１名が依然行方不明となっております。ここに改めて、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

また、この度の災害に伴う「丸森町災害ボランティアセンター」運営に対しまして、人的協力、支援金や物資のご厚意、ボランティア活動協力等、多くの皆様方の多大なるご支援とご協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。

本会は発災後、丸森町、宮城県社会福祉協議会、一般社団法人等と連携し、災害ボランティアセンター設置運営に関する様々な協議を重ね、10月16日、空きスーパー店舗（旧アイユー）に災害ボランティアセンターを立ち上げ、10月20日からボランティアの受入を開始し、本年４月30日に閉所するまでの約６か月間、運営支援を頂いた皆様方とともに災害復旧活動を展開して参りました。

この間、災害ボランティアセンターには、全国各地から多くのボランティアに駆け付けていただき、ボランティア活動に参加した方は、延べ16,750人を数え、家屋内外の泥出しや家具等の片付けなどの活動にご尽力していただきました。「困っている人に手助けしたい」、「被災者に寄り添いたい」、「被災地の復興・再建を後押ししたい」、そのような助け合いの精神に基づいたボランティアの積極的かつ献身的な活動に、多くの町民の皆様が勇気づけられたのではないかと思っております。

今回の経験を教訓に本会では、運営に関する振り返りを行い、災害ボランティアセンターの果たすべき役割について改めて考えるとともに、いつ起こりうるか分からない災害に備えて、ボランティアを受け入れる環境を平時から整えていくため、丸森町をはじめ関係機関の皆様方とより一層の連携協力をして参りたいと考えております。

結びに、役職員一丸となって、町から受託した被災者見守り・相談支援事業「丸森町社協地域支え合いセンター」の運営、更なる地域福祉の推進に努めて参りますので、地域住民の皆様、各関係機関等のご支援、ご協力を切にお願い申し上げますとともに、本紙の発行にあたり、ご協力を頂きました関係各位に対しまして心から感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

丸森町災害ボランティアセンター報告書の発刊に寄せて

丸森町長　**保　科　郷　雄**

「令和元年東日本台風」により、丸森町では、町政史上最悪の被害を受けました。10月12日から13日にかけての非常に激しい雨は、大規模な土砂災害や河川の堤防決壊・越水を招き、災害関連死を含む11名の尊い命が犠牲となったほか、１名が依然行方不明となっており、住家、公共土木、農林業施設においても甚大な被害が発生しました。

そのような災害の中にあって、10月16日に丸森町災害ボランティアセンターが開設され、多くのボランティアの受け入れやニーズの把握、被災者とのマッチングなど、被災された方々の支援に献身的に努めていただきました。本年４月30日の災害ボランティアセンター閉所までの間、全国から駆け付けていただいた延べ16,750人に上るボランティアの皆様には、家屋内外の泥出しや家具等の片づけなど、行政だけでは行き届かない部分の作業を担っていただき、被災者の生活再建の大きな一助となりました。改めまして、様々な復旧活動にご尽力いただいたボランティアの方々を始め、関係者各位に心から感謝を申し上げます。

現在、本町では、本年６月に策定した「丸森町復旧・復興計画」に基づいて、町民の皆様とともに一日も早い復旧・復興と、将来にわたり安心して暮らせるまちづくりに向け、第一歩を踏み出したところです。目標としている復興と、その先のまちづくりを実現するためには、町民一人ひとりの力が不可欠です。本災害において、共助の精神のもと自発的に活動いただいたボランティアの方々の力強い姿を思い出し、復旧・復興計画のビジョンである「共に立ち上がろう　次代につなぐ新たな丸森（まち）づくり」を合言葉に、町全体が一丸となって復興に向けて歩みを進めてまいりたいと思います。

結びに、本報告書の発刊が災害ボランティア活動の発展につながり、今後の災害対応に役立つものとなることを願うとともに、丸森町社会福祉協議会や各関係団体の皆様、支援をいただきました全国各地のボランティアの皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

▲災害ボランティアセンタースタッフに激励を送る保科町長（左）

1 被害状況について

令和元年東日本台風の概要

令和元年10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は12日に大型で強い勢力のまま伊豆半島に上陸し、関東地方を通過した後、13日頃に日本の東側で温帯低気圧に変わりました。宮城県では、11日頃から雨が降り出し、12日から13日未明まで広い範囲で非常に強い雨が降り、丸森町でも筆甫で594.5㎜、丸森で427.0㎜と10月1か月分の平均値の２～３倍の雨量となりました。

▲丸森町保健センター２階から見た被災状況

丸森町内の降水量及び河川の水位

（令和２年９月30日現在）

（１）町内の降水量（令和元年10月12日～ 10月13日）

観測所	総　雨　量 (mm)	最大時間雨量 (mm)	最大時間雨量記録日時
丸　　森	427	60	10月12日午後11時
内　　川	314	54	10月12日午後10時 (以降破損により欠測)
笠　　松	560	78	10月12日午後10時
筆　　甫	594	74	10月12日午後８時
大　　内	612	77	10月12日午後10時
大　　張	481	55	10月12日午後10時

出典：丸森町資料

（２）河川の水位

河川名	観測所	最高水位 (m)	降り始めからの上昇（m）	最高水位記録日時
阿武隈川	丸森	23.44	8.56	10月13日午前５時
内　　川	内川	—	8.71	浸水により欠測 (10月12日午後９時に9.84mを記録)
雉子尾川	山居	7.11	6.74	10月12日午後11時20分

出典：丸森町資料

町内の被害状況

（令和２年９月30日現在）

（１）人的被害

	死　者	災害関連死	行方不明者	救助件数
人的被害（名）	10名	１名	１名	50件／97名

出典：丸森町資料

（２）浸水被害件数

（単位：件）

地　区	床上浸水	床下浸水	合　計
丸　森	484	122	606
金　山	257	38	295
筆　甫	30	31	61
大　内	52	43	95
小　斎	46	7	53
舘矢間	12	45	57
大　張	16	16	32
耕　野	11	14	25
合　計	908	316	1,224

出典：丸森町資料

▲大きな被害を受けた薄平橋（五福谷地区）

（３）地区別の住家被害区分件数

（単位：件）

地　区		丸　森	金　山	筆　甫	大　内	小　斎	舘矢間	大　張	耕　野	合　計
被害区分	全　壊	70	4	7	7	4	2	3	4	101
	大規模半壊	132	30	7	4	25	1	4	2	205
	半　壊	240	164	25	36	11	7	15	14	512
	準　半　壊	6	1	0	1	0	3	0	0	11
	一　部　半　壊	77	28	16	38	9	45	13	10	236
計		525	227	55	86	49	58	35	30	1,065

出典：丸森町資料

（4）施設及び産業関連被害

施設名等			個所数	金　額（千円）
公共土木施設			683	12,553,000
	土木施設	道　路	341	6,428,300
		河　川	338	4,764,700
		橋　梁	3	260,000
	都市施設	公　園	0	0
		雨水ポンプ場	1	1,100,000
農林業施設			2,216	24,678,846
	農業用施設	農　地	786	8,830,100
		水　路	676	8,627,300
		農　道	470	2,779,046
		頭首工等	108	1,850,100
	林業用施設	林　道	155	2,204,000
	揚排水機場		21	388,300
公共下水施設			3	51,000
農業集落排水施設			2	350,000
小　計			2,904	37,632,846
行政施設、学校教育施設、公営住宅ほか				2,402,784
農作物（364ha）、農業用機械等				1,145,440
商工業関係				6,100,570
合　計				47,281,640

出典：丸森町資料

▲浸水した丸森町保健センター内部（右側の部屋が丸森町社協事務所）

2 災害ボランティアセンターの運営について

丸森町災害ボランティアセンター開設

『丸森町地域防災計画』（平成29年３月改定）における〔風水害等災害対策編第16節ボランティア活動]及び[震災対策編第16節ボランティア活動〕の中で、＜大規模災害発生時の災害応急対策及び復旧・復興期においては、多くの人員を必要とするため、県及び町は、ボランティア活動の協力を申し入れる団体や個人の協力を得て、効果的な応急対策、復旧・復興対策を実施する。その際、社会福祉協議会等が中心となって、町の対策本部からの情報等により、速やかに「災害ボランティアセンター」を設置し、全国から駆け付ける災害ボランティアの活動を支援、調整し、被災住民の生活復旧を図ると共に、専門的なボランティアニーズに対しては、行政が災害ボランティアセンターとの連携を図りつつ対応する。＞とあります。

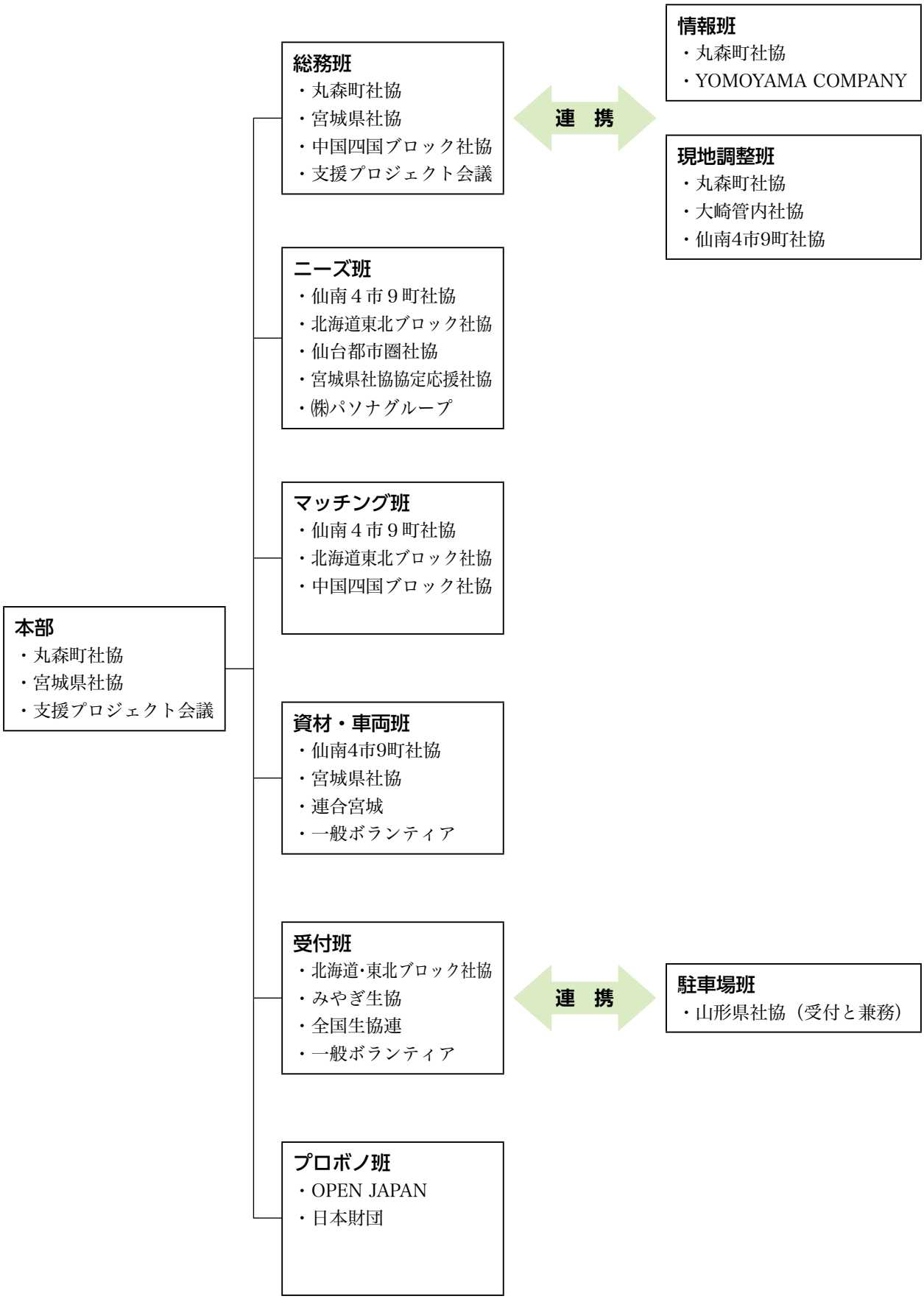
このことを踏まえ、丸森町災害ボランティアセンターは、令和元年10月16日、丸森町の要請に基づき設置しました。以下、閉所までの運営概要は次のとおりです。

- **開　設　日**　令和元年10月16日（水）
- **設 置 場 所**　旧アイユー店舗（宮城県伊具郡丸森町字花田68番地）
- **受付開始日**　令和元年10月20日（日）
- **開 所 日 数**　162日間
- **閉　所　日**　令和２年４月30日（木）
- **支 援 ニ ー ズ 件 数**　1,089件
- **ボランティア活動人数**　延べ16,750人
- **応援社協派遣職員数**　延べ1,970人

丸森町災害ボランティアセンターにおいてボランティアを受け入れるまで

日　　時	社会福祉協議会事務所（以下社協）	災害ボランティアセンター
10月12日（土） 午後１時50分 午後２時20分 午後２時56分 午後３時20分 午後４時35分 午後７時50分	 特別警戒配備発令（社協） 非常配備１号発令（社協） 大雨・洪水警報（気象台） 避難勧告（町） 災害対策本部会議（社協） 大雨特別警報（気象台） 避難指示（町）	
10月13日（日） 午前１時 午前５時45分 午後１時10分	 社協事務所（保健センター） 床上浸水約15cm 大雨特別警報解除 大雨警報解除 事務局長及び事業局長が14日まで宿直対応	
10月15日（火）	①災害対策本部会議（社協） ②第１回災害ボランティアセンター 立ち上げ会議 出席関係者 宮城県社会福祉協議会 支援プロジェクト会議 YOMOYAMA COMPANY 丸森町保健福祉課 丸森町社会福祉協議会	 【打合せ内容】 ・運営体制について ・災害ボランティアセンター設置場所…町民体育館 ・ボランティア募集の方法 ・必要資機材及びレンタカーの確保 ・派遣職員について　等
10月16日（水）	第２回災害ボランティアセンター立ち上げ会議 出席関係者 宮城県社会福祉協議会 OPEN JAPAN YOMOYAMA COMPANY せんだい・みやぎNPOセンター 東日本大震災全国ネットワーク 丸森町保健福祉課 丸森町社会福祉協議会	**災害ボランティアセンター設置** 【設置場所の変更】 ・町民体育館→旧アイユー店舗 【打合せ内容】 ・19日からボランティア受付開始する旨を丸森HPでリリースする ・仮設トイレとうがい手洗いの場の確保について
10月17日（木）	災害ボランティアセンター受入の事前打合せ	【確認内容】 ・各班の役割等の最終確認 ・雨天予報のため、安全面を考慮し19日は受け付けないことと決定。20日から受付開始する。
10月19日（金）		班ごとに準備を進める
10月20日（日）		ボランティア受入開始 ・ボランティア活動人数489人

丸森町災害ボランティアセンター運営体制図



【事務分担】

総務班	・災害ボランティアセンターの運営全般
	・各班人員配置等の取りまとめ
	・マスメディア等の取材対応及び電話対応
	・必要物品及び資機材の調達
	・派遣協力職員等の調整
	・行政や関係団体・機関との連絡調整

情報班	・被災地域の情報収集やチラシ、ホームページやSNSを使った情報発信及び広報
	・メール受信及び、Facebook・twitterの運営管理
	・県内外への広報活動全般
	・被災住民向けの情報提供
	・ボランティア向け情報発信

受付・駐車場班	・ボランティア受付・案内・誘導
	・被災住民のボランティア依頼の受付
	・総合受付窓口業務（高速道路無料手続き等）
	・ボランティア駐車場の管理・運営・案内
	・個人、団体のボランティア登録作業、ボランティア保険の加入確認、名札作成、ボランティア集計等

ニーズ班	・ボランティア依頼ニーズの作成（ニーズ票の作成）
	・依頼者宅の状況確認（被害状況等）
	・作業を要する期間、人数、資機材、アクセス、依頼者の状況確認
	・ボランティアニーズデータの入力

マッチング班	・ボランティアに対するオリエンテーション（ルールや流れ、注意事項の説明や各種案内）
	・ボランティアとニーズの情報を基にコーディネート
	・依頼者宅へ連絡し、送り出し（受入）が可能か連絡する

資材・車両班	・ボランティアが活動で使用する資機材の保管管理・運用等
	・ボランティアが活動で使用する車両の保管管理・運用等
	・ボランティアが活動で使用する消耗品等の在庫管理
	・ボランティア活動場所までの送迎、または行先案内

プロボノ班	・床はがし及び壁はがしの指導・講習会の実施
	・エリア対応のボランティア受入対応・調整
	・被害状況及び復旧状況の把握等
	・被災地におけるシーズの調整等
	・炊き出しの実施

現地調整班	・丸森町の被害状況・生活状況、ボランティアニーズの把握
	・地域単位、個別単位での聞き取り、訪問調査

丸森町災害ボランティアセンター各班の役割と活動

総務班

災害ボランティアセンターの中核として運営全体の取りまとめや各種問い合わせへの対応、団体でのボランティア申し込みの調整などを行いました。また、行政や関係機関との連絡調整や災害ボランティアセンターの最終決定などの役割を担うとともに、マスコミへの対応や皆様からの寄付の受領、スコップなどの資機材の調達などボランティアセンターを円滑に運営するための機能と役割を果たしました。

▲ミーティングの様子

▲運営現場の中核を担った総務班

ニーズ班

住民からのボランティア依頼への対応と集約の役割を担いました。電話や直接来所される方々からボランティア活動の内容を受付、ニーズ表への記入やデータとして入力作業を行いました。また、マッチング班と翌日のボランティア数を予想し、活動場所の家主への事前連絡や活動人数の調整などを行いより円滑にボランティアの送り出しが行えるように調整をしました。

▲ニーズ受付の窓口として機能しました

▲ニーズの集約作業をする職員

マッチング班

地域住民から寄せられたボランティアへの依頼とボランティア希望者との調整から送り出しまでを主に行いました。活動場所の詳しい説明のほかにボランティア活動での注意点についてオリエンテーションをすることにより、受け入れる住民と活動するボランティアが気持ちよく、安心して活動できるようつなぎの役割を果たしました。

また、作業終了後の報告を聞くことで現場視点からの気づきを次回の活動に活かせるよう努めました。

▲マッチング作業をする職員

▲オリエンテーションの様子

資材・車両班

資機材の整理から車両の管理、活動場所への送迎を行いました。活動範囲が広大な丸森町では送迎にも時間がかかるため限られた車両で効率的に移動できるように現場の位置関係や人数、送迎時間の調節を行い、限られた車両の中でできるだけ円滑に活動ができるように工夫しながら活動をしました。また､資機材の整理から洗浄まで行い翌日の活動への支障がないように準備を行いました。

▲ここでスコップなどの資機材を受け取ります

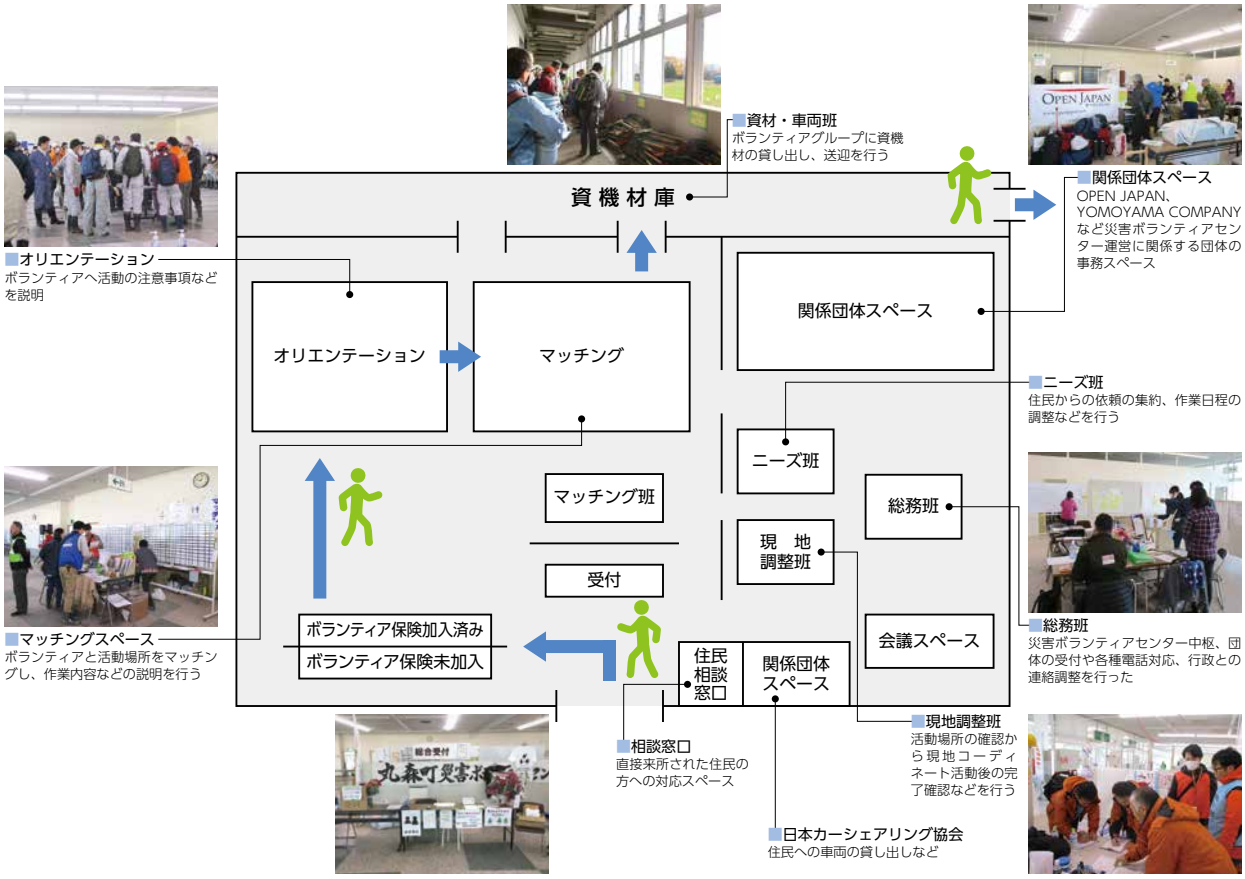
▲ボランティア活動用のトラック

情報班

町内の団体である一般社団法人YOMOYAMA COMPANYが中心となりFacebookなどのSNSで町内外への丸森町の状況やボランティアの活動について情報発信を行いました。

▲YOMOYAMA COMPANYと関係団体

丸森町災害ボランティアセンター図



丸森町災害ボランティアセンター運営実績

総支援件数
2,371件

依頼件数(8地区合計)
1,067件

●丸森地区
ボランティア依頼件数　555件
町内全体での床上浸水の割合が丸森地区で55％を超えていた。

●小斎地区
ボランティア依頼件数　52件
道路状況などから比較的早い段階でボランティアの派遣ができた地域であった。

●大張地区
ボランティア依頼件数　29件
ボランティア内容としては主に土砂の撤去が大半を占めていた。

●金山地区
ボランティア依頼件数　263件
阿武隈川の支流雉子尾川が中心を流れており、川からの越水による被害が大きかった。

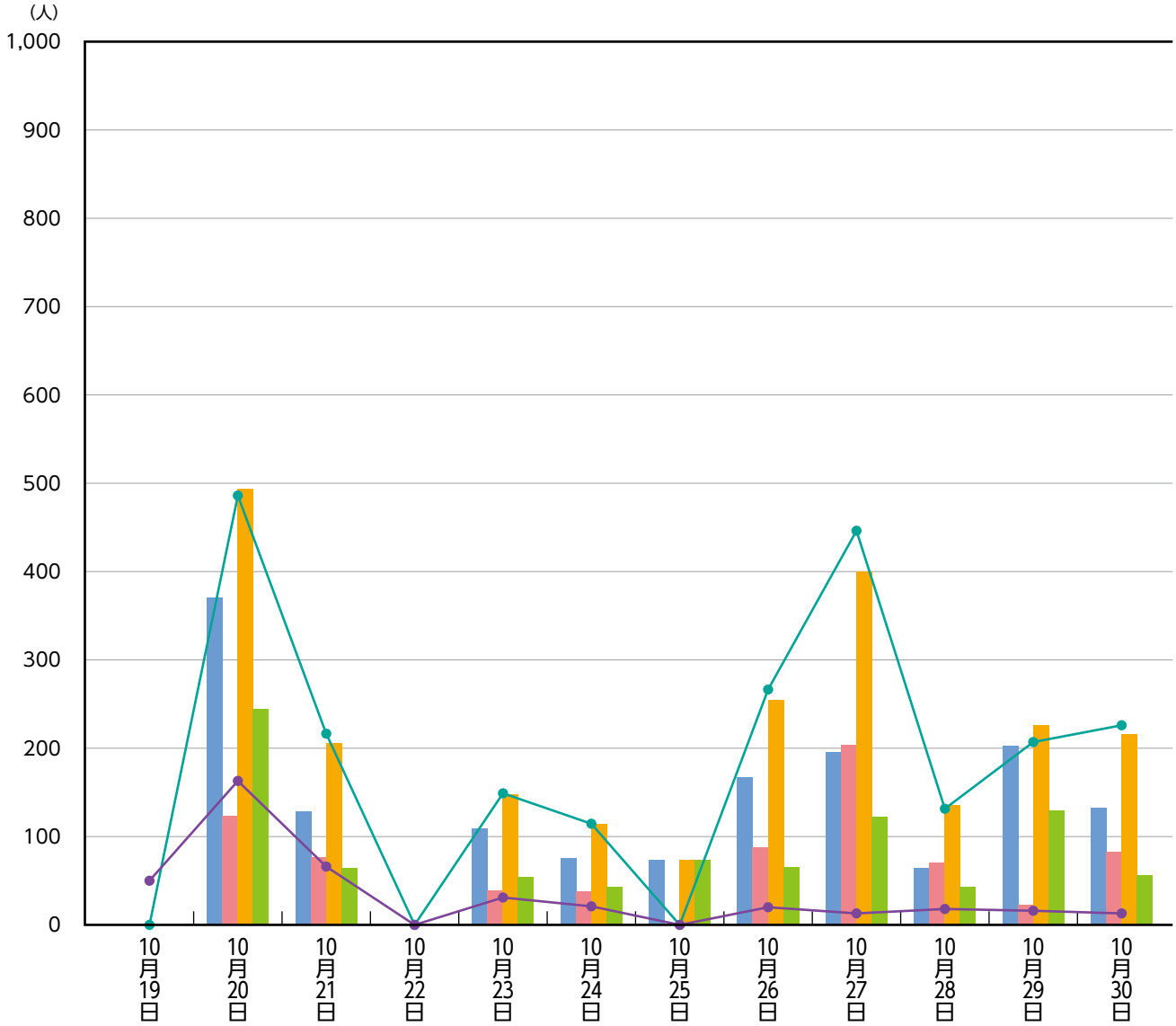
●耕野地区
ボランティア依頼件数　37件
裏山からの土砂、山の沢水による被害か多く、人の力だけで対応が難しい地域であり、重機が入った後の作業が主だった。

●大内地区
ボランティア依頼件数　67件
面積約64平方㎞と町内で3番目に広く、川からの越水と山からの土砂崩れと広い範囲で被害があった地域であった。

●舘矢間地区
ボランティア依頼件数　11件
床上までの浸水被害が少ない地域であったが、局所的に土砂崩れなどの被害があった地域であった。

●筆甫地区
ボランティア依頼件数　53件
筆甫までの道が寸断されており、ボランティアの派遣がなかなか進まなかった地域。住民とまちセンと連携をしながら活動を行った。

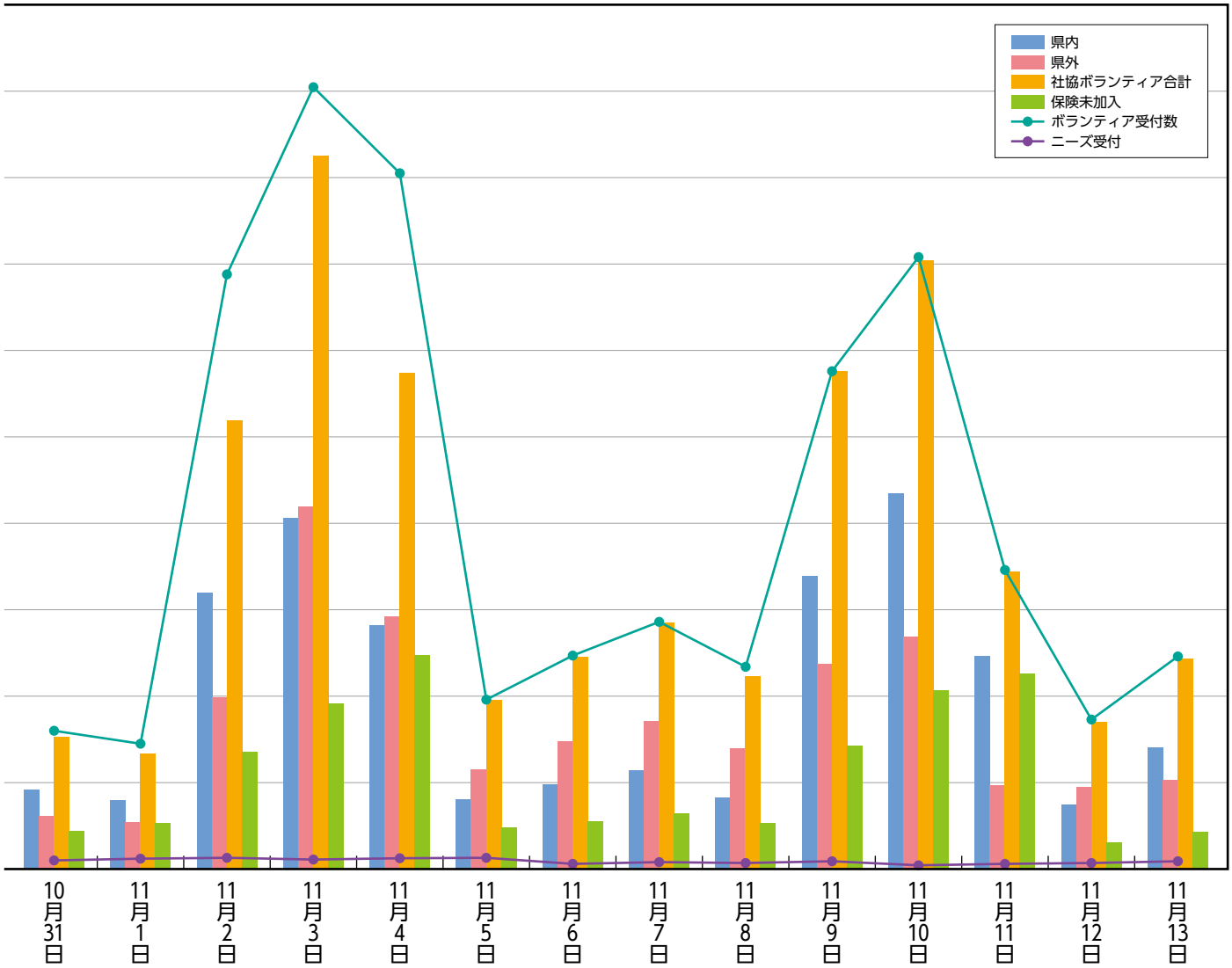
丸森町は宮城県の南端に位置しており、総面積は273.30平方㎞と広大です。今回の台風では、阿武隈川及びその支流からの越水、決壊により付近一帯が浸水したほか、山間部では山からの水、土砂崩れによる被害が多くを占めました。住宅も町内全土に点在しており被害も広範囲に及び、ボランティア活動がなかなか思うように進まない所もありました。各まちづくりセンターと連携を取りながら、より円滑にボランティアと被災者をつなげられるよう活動を行いました。



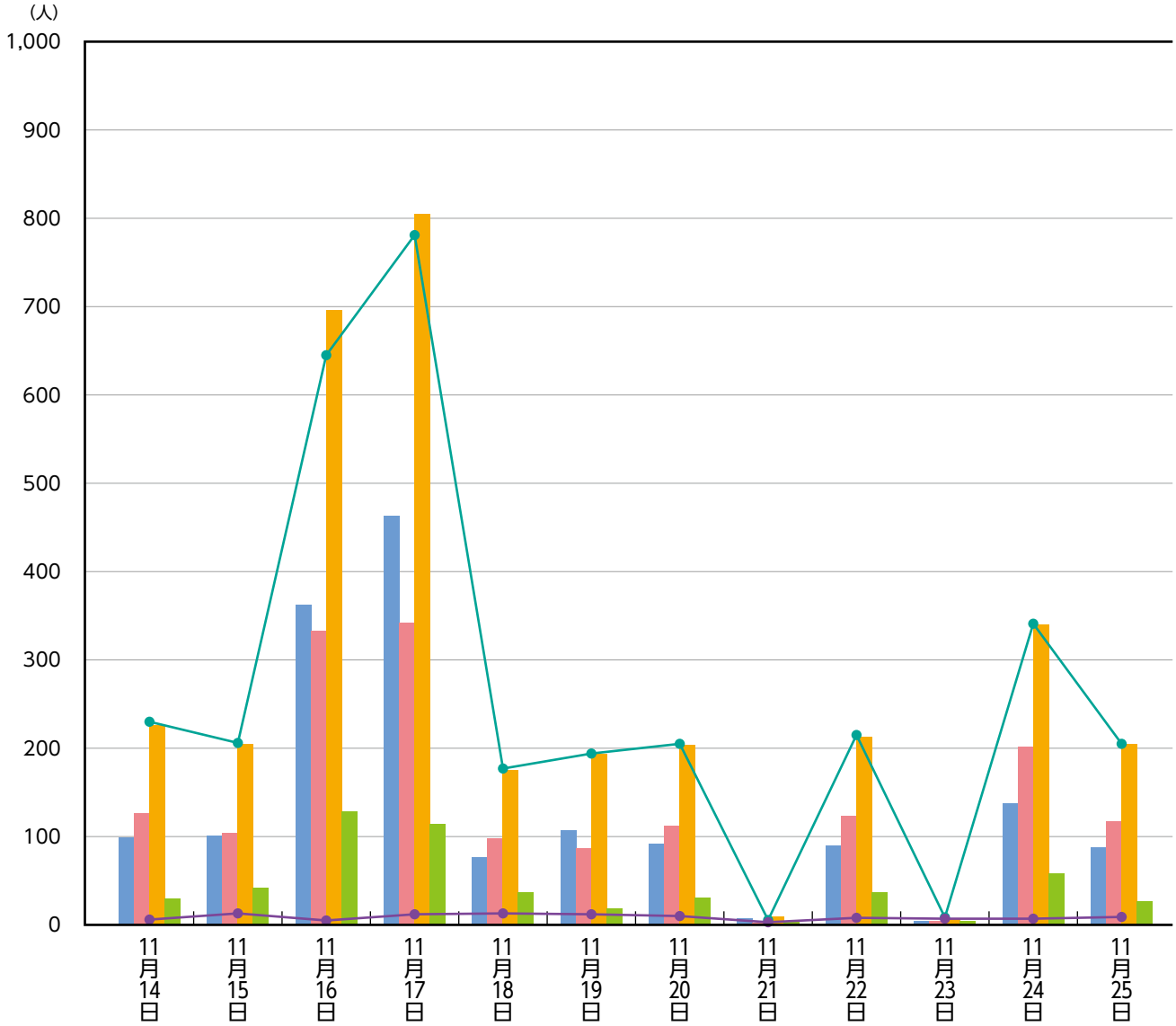
日別ボランティアの実績

2019年

	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日
県内		371	129		109	76	74	167	196	65	203	133
県外		123	77		39	38	0	88	204	71	23	83
ボランティア合計		494	206		148	114	74	255	400	136	226	216
ボランティア保険未加入		245	64		54	43	74	66	122	43	130	56
備考	雨のため中止			雨のため中止			雨のため中止					

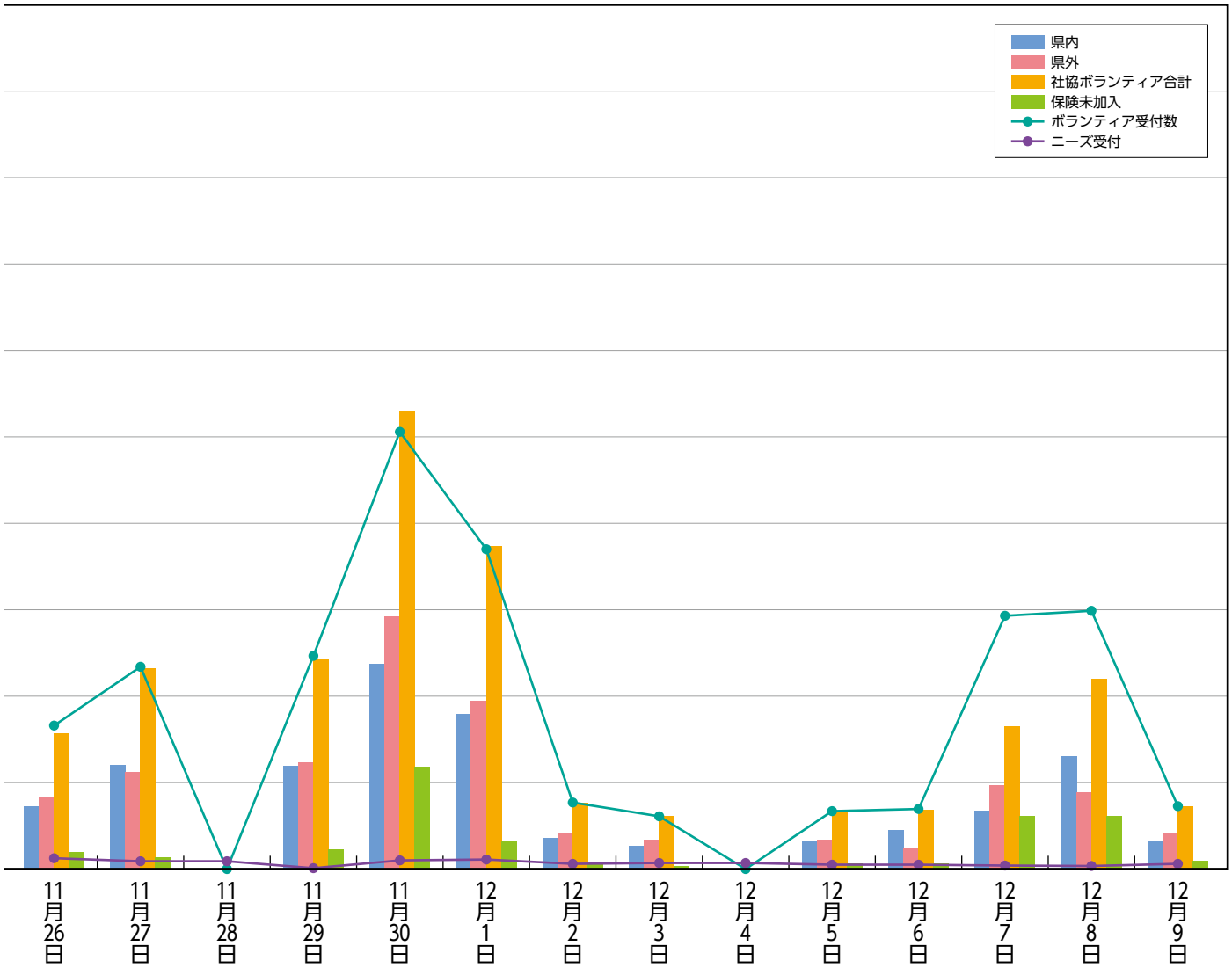


10月31日	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日	11月9日	11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
92	80	320	406	282	81	98	114	83	339	435	247	75	141
61	54	199	419	292	115	148	171	140	237	269	97	95	103
153	134	519	825	574	196	246	285	223	576	704	344	170	244
44	53	136	192	248	48	55	65	53	143	207	226	31	43
		ボランティアバス…3台（仙台・山形）	ボランティアバス…5台（仙台・山形）	ボランティアバス…5台（仙台・山形）					ボランティアバス…1台（仙台）	ボランティアバス…2台（仙台）			

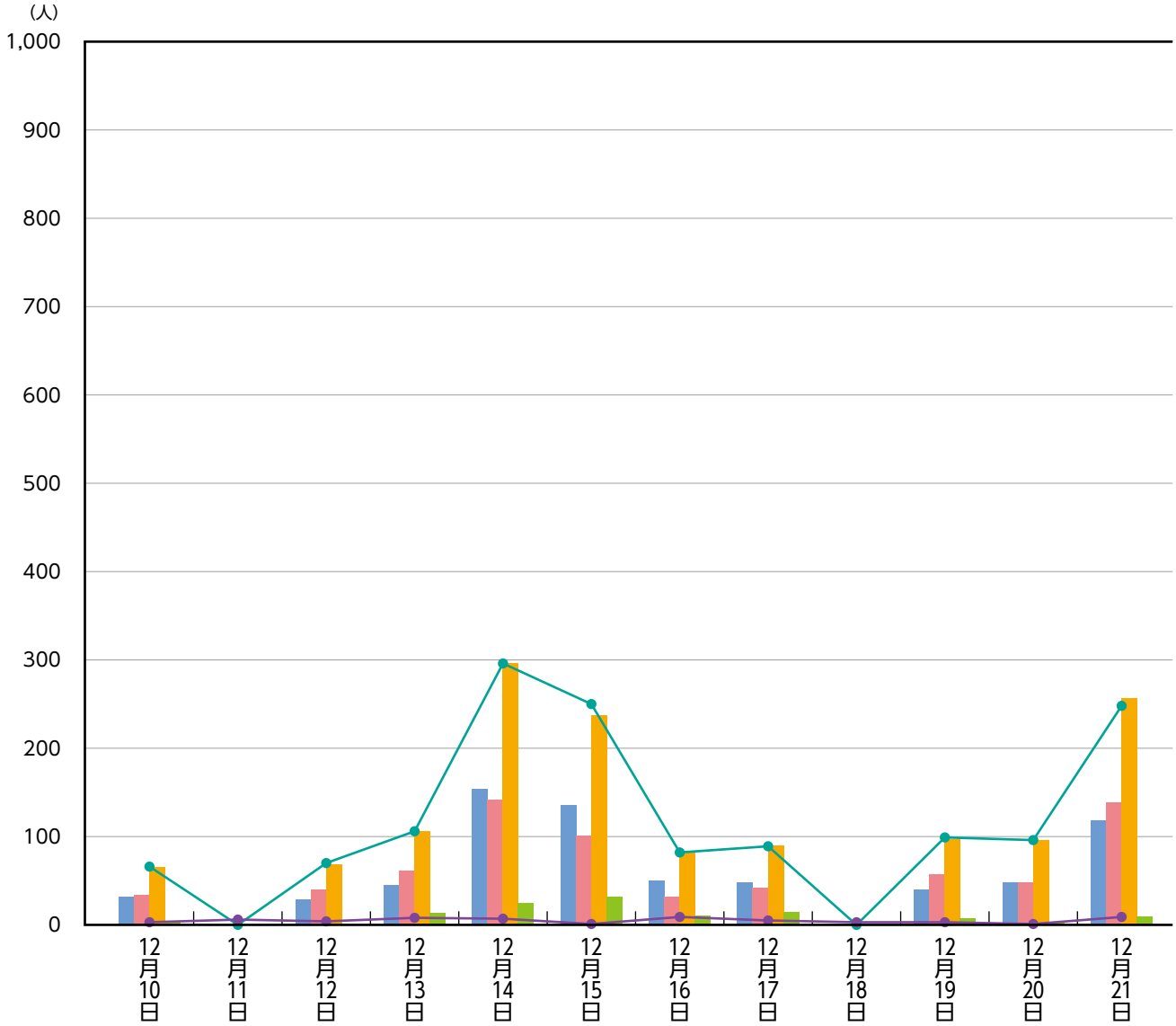


日別ボランティアの実績

	11月14日	11月15日	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日	11月22日	11月23日	11月24日	11月25日
県内	99	101	363	463	77	107	92	8	90	4	138	88
県外	127	104	333	342	98	87	112	2	123	4	202	117
ボランティア合計	226	205	696	805	175	194	204	10	213	8	340	205
ボランティア保険未加入	30	42	129	114	37	19	31	3	37	4	58	27
備考			・ボランティアバス…1台 ・軽トラ大作戦	・ボランティアバス…1台 ・軽トラ大作戦				ニーズ整理のため活動休止		雨のため中止		

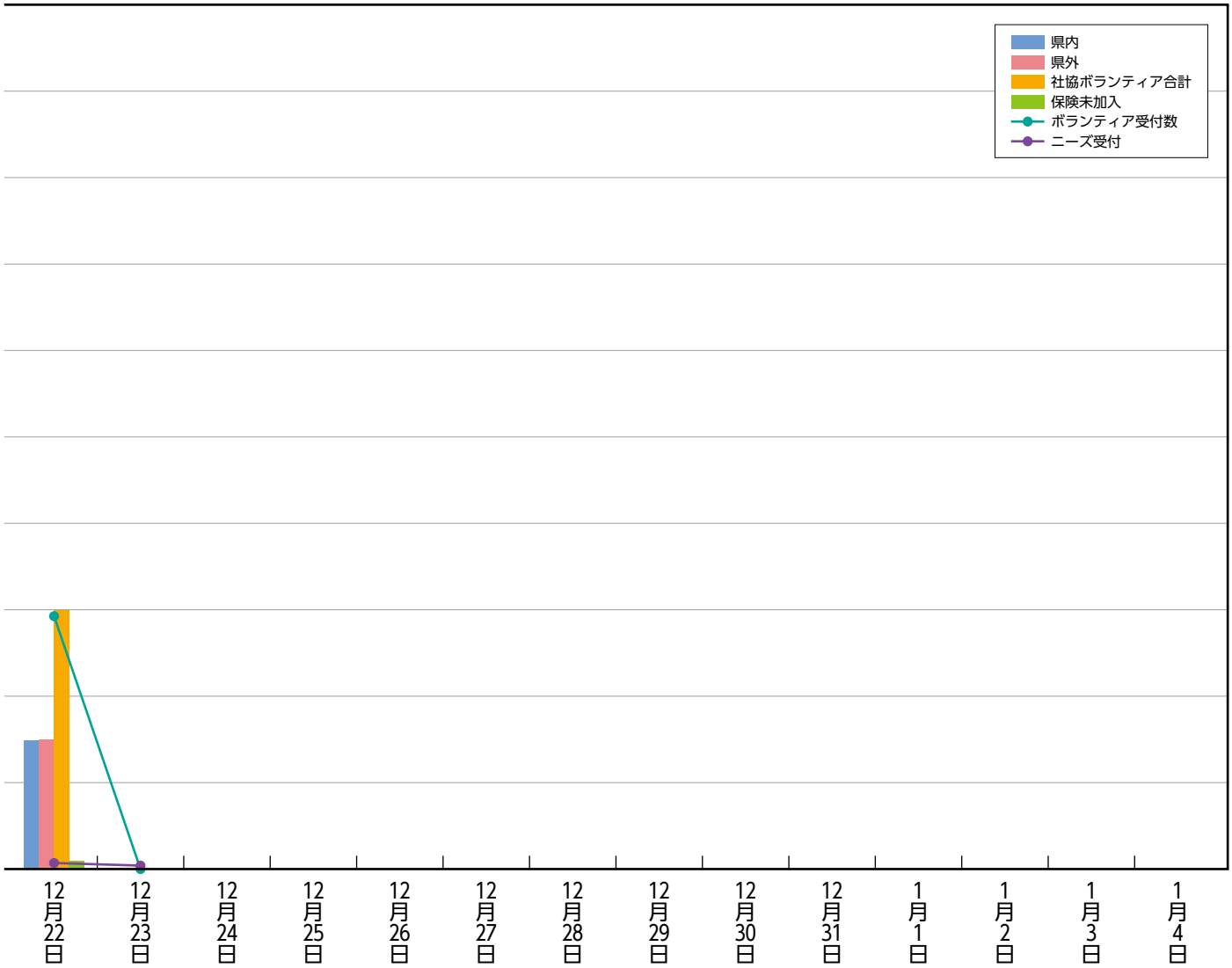


11月26日	11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日
73	120		119	237	179	36	27		33	45	68	131	32
84	112		123	292	195	41	34		34	24	97	89	41
157	232		242	529	374	77	61		67	69	165	220	73
20	14		23	118	33	5	3		7	7	61	61	10
		一斉訪問・ニーズ整理のため休止						一斉訪問・ニーズ整理のため休止					



日別ボランティアの実績

	12月10日	12月11日	12月12日	12月13日	12月14日	12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日
県内	32		29	45	154	136	50	48		40	48	118
県外	34		40	61	142	101	32	42		57	48	139
ボランティア合計	66		69	106	296	237	82	90		97	96	257
ボランティア保険未加入	3		0	14	25	32	11	15		8	3	10
備考		ニーズ整理のため休止							ニーズ整理のため休止			

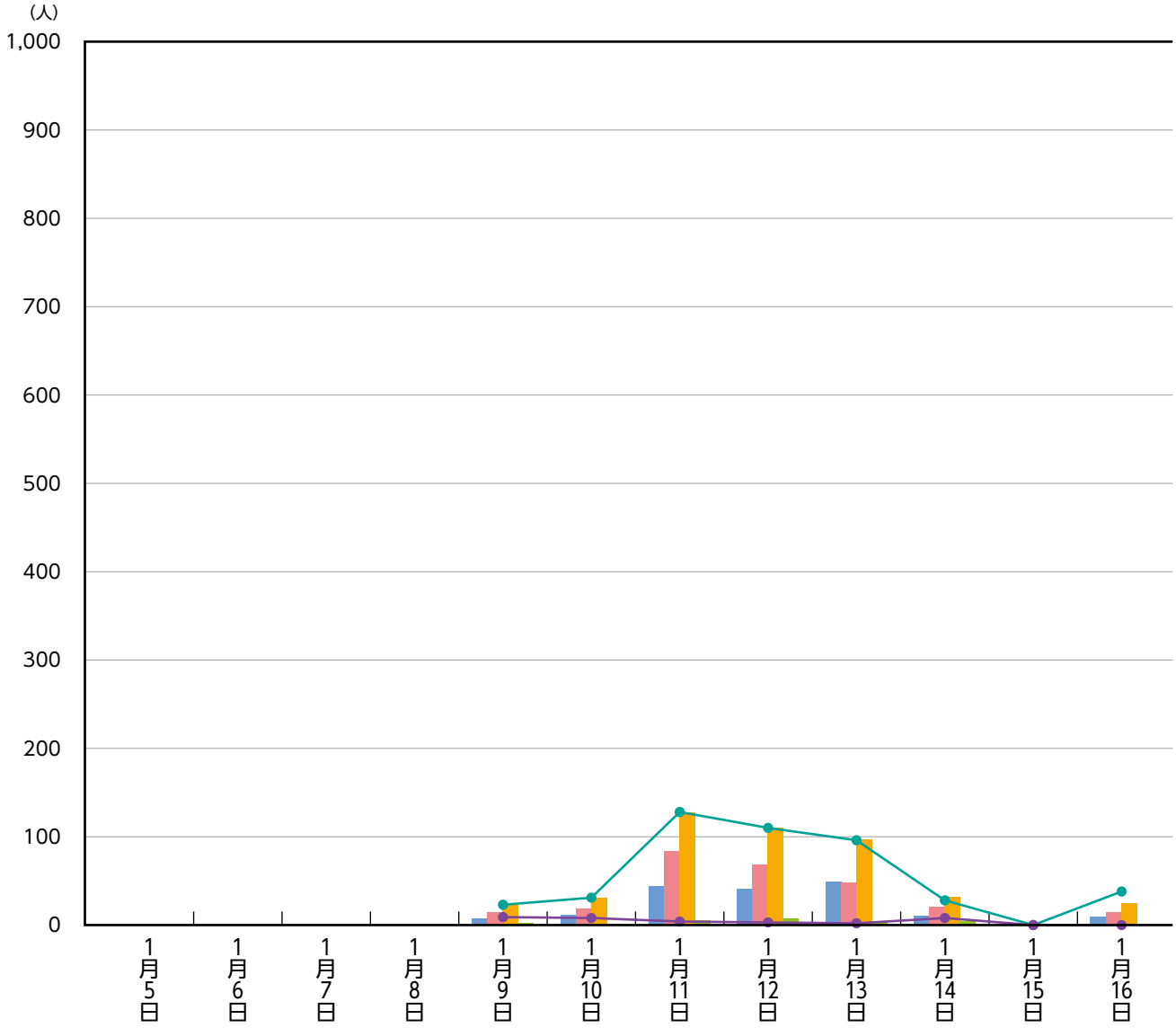


2020年

12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	12月26日	12月27日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日	1月4日
149													
150													
299													
10													

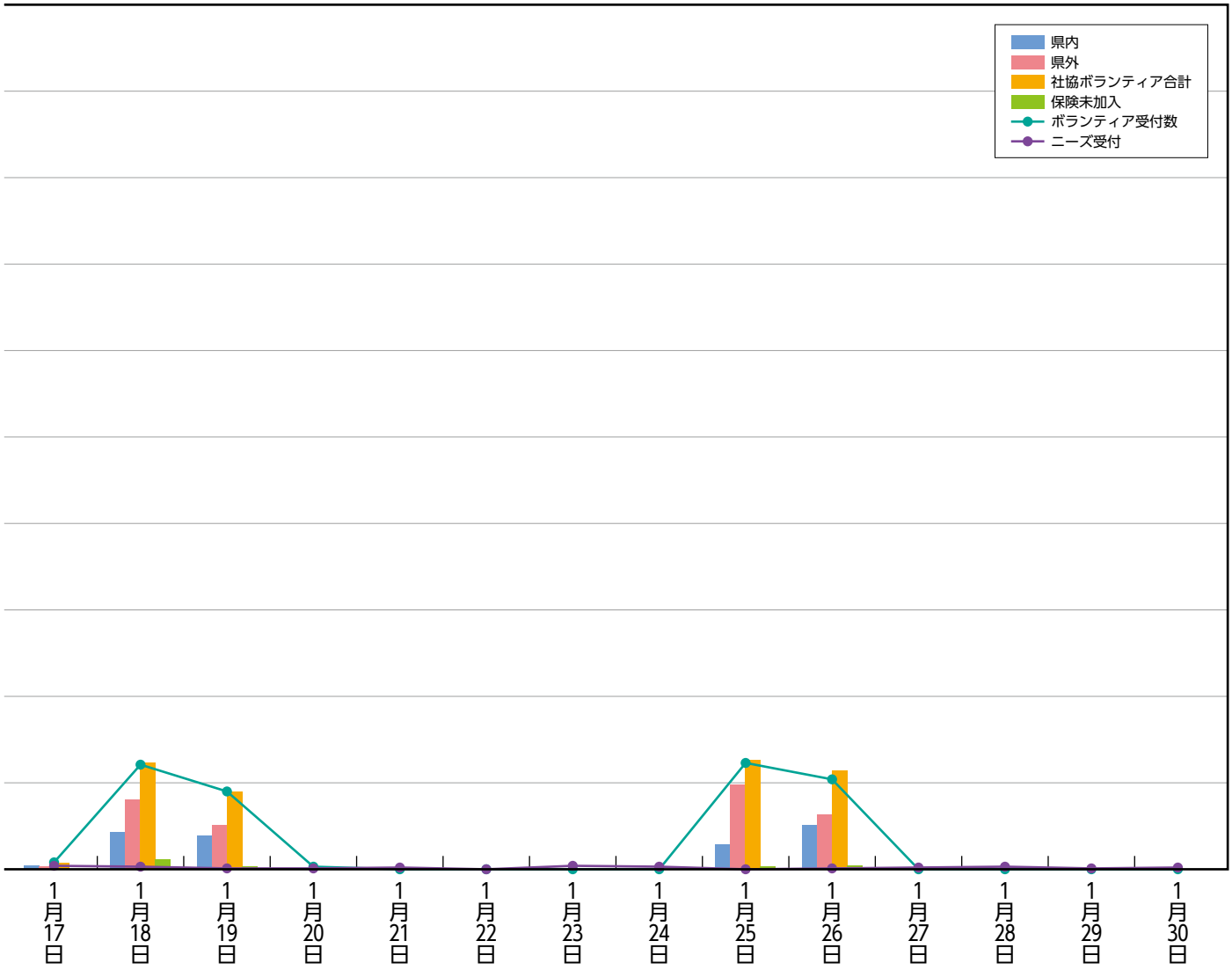
12/21～12/28　仮設への引越しボランティア

12/23～1/8　ボランティア受入休止仮設住宅入居者支援及び訪問

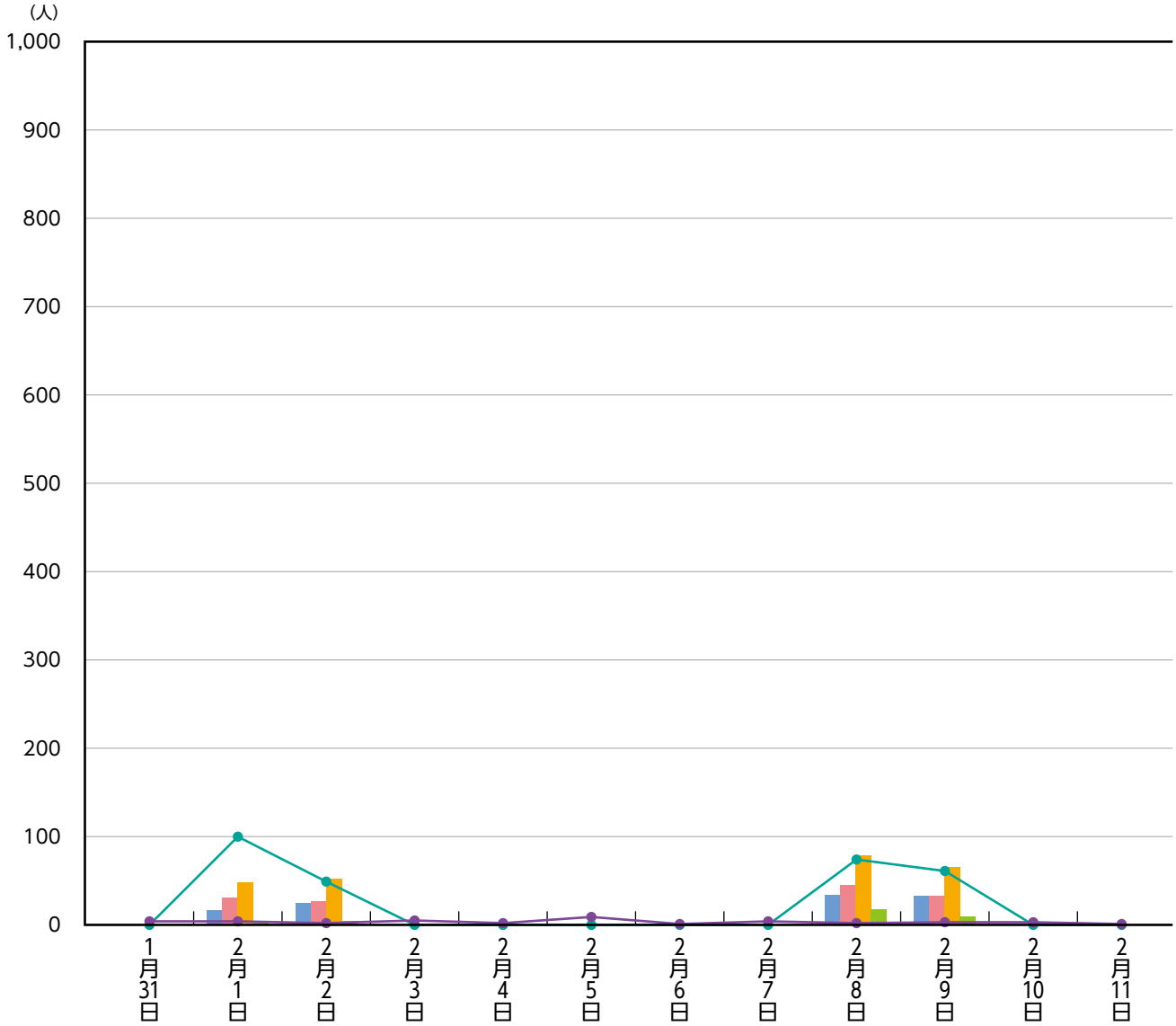


日別ボランティアの実績

	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日
県内					8	12	44	41	49	11		10
県外					15	19	84	69	48	21		15
ボランティア合計					23	31	128	110	97	32		25
ボランティア保険未加入					2	1	5	8	3	4		0
備考	12/23～1/8 ボランティア受入休止 仮設住宅入居者支援及び訪問										雪・雨のため活動休止	

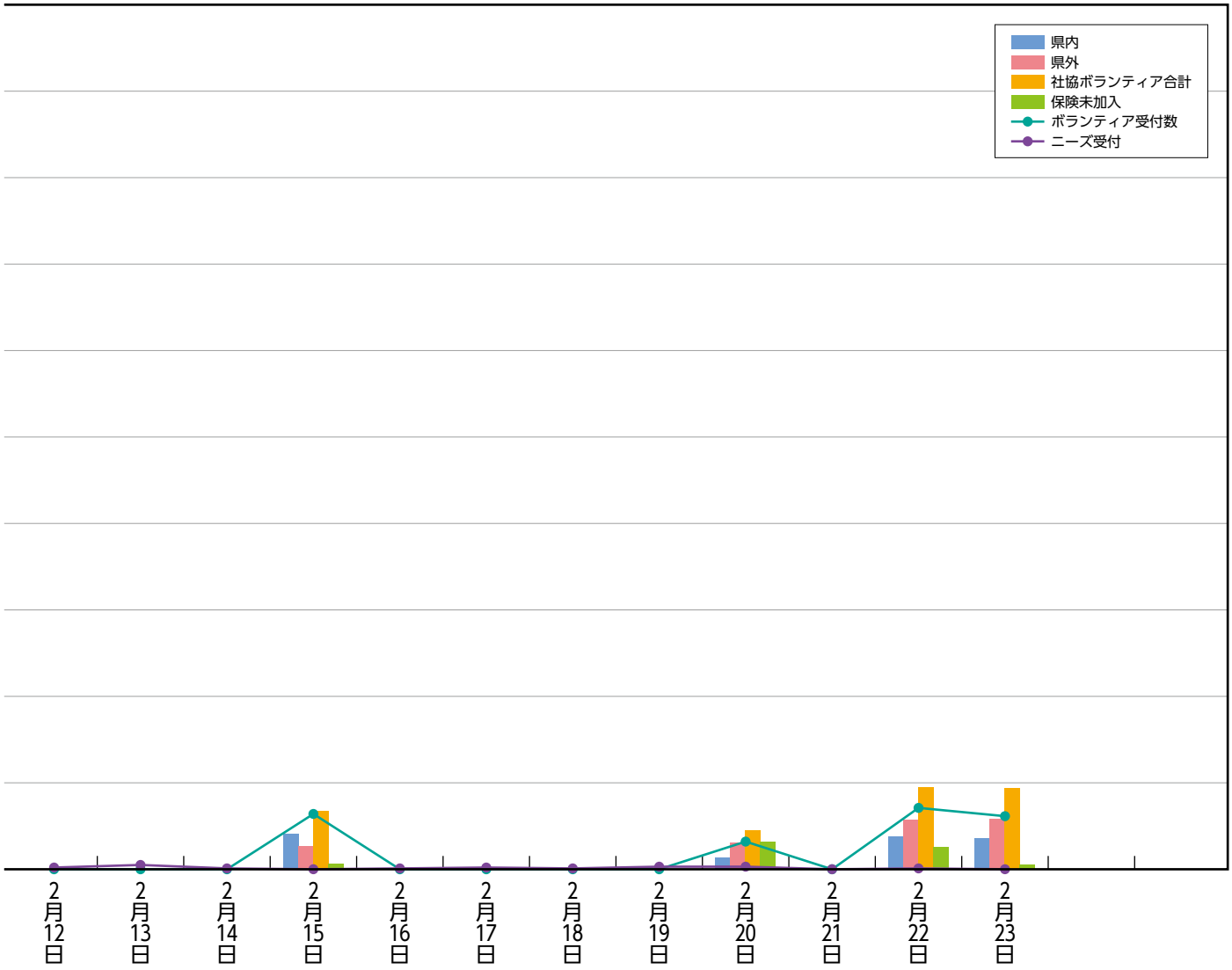


1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日	1月29日	1月30日
5	43	39						29	51				
3	81	51						98	63				
8	124	90						127	114				
0	12	3						3	4				
	土日活動型へ変更							Peatix導入事前登録制になる					



日別ボランティアの実績

	1月31日	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日	2月8日	2月9日	2月10日	2月11日
県内		17	25						34	33		
県外		31	27						45	33		
ボランティア合計		48	52						79	66		
ボランティア保険未加入		4	4						18	10		
備考												



2月12日	2月13日	2月14日	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月20日	2月21日	2月22日	2月23日	2月24日~4月30日
			41					14		38	36	
			27					31		57	58	
			68					45		95	94	
			7					32		26	6	
											天候が荒れたため午後中止	新型コロナウイルス感染拡大を受け休止

丸森町災害ボランティアセンター運営・活動支援団体

災害時のネットワーク機能により、様々な団体様より運営に対してご支援を頂きました。

一般社団法人　OPEN　JAPAN

全国の被災地で復旧・復興支援活動をしている一般社団法人OPEN JAPANは、令和元年東日本台風災害直後からいち早く丸森町に駆けつけてくださった団体です。OPEN JAPANは、主に重機を活用して、行政だけでは行き届かない生活道路の泥撤去作業や床下の泥撤去などの支援活動を各地区で展開してきました。特に被害が大きかった地域においては、泥撤去支援のほかに、炊き出しやイベントの開催などコミュニティ支援も積極的に実施してきました。

▲生活道路の早期復旧のため活動するOPEN JAPAN

▲多くの土砂が堆積した家屋では、重機が大活躍でした

一般社団法人　YOMOYAMA COMPANY

平時より住民主体のまちづくりに取り組む町内の団体YOMOYAMA COMPANYは、丸森町災害ボランティアセンター運営において、立ち上げ協力及び情報班としてボランティア募集やボランティアに役立つ情報の発信を担いました。また、NPOネットワークを生かして、多くの支援団体・個人が参加する丸森町災害情報共有会議の運営主体を担いました。多種多様な視点から丸森町の復旧・復興について様々な意見を共有する場となりました。

▲多様な支援団体が参加した災害情報共有会議

▲情報発信としての役割を担ったYOMOYAMA COMPANY

一般社団法人　日本カーシェアリング協会

丸森町では、令和元年東日本台風災害により自家用車を失った方が多数いらっしゃいました。そのような中、災害ボランティアセンター内に受付を設置した日本カーシェアリング協会は、車両を必要としている町民の移動車として、軽・普通自動車を貸し出したほかに、作業用の車両として軽トラック等を貸し出しました。カーシェリングは、自家用車を失った町民の移動及び作業手段のツールとしての役割を果たしました。

▲日本カーシェアリング協会受付所

▲借り受けに訪れた町民とカーシェリング車両

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

災害における企業、社会福祉協議会、NPO、共同募金会が協働するネットワーク組織である災害ボランティア活動支援プロジェクト会議より、令和元年東日本台風災害直後から災害ボランティアセンターの立ち上げ支援やフェーズに応じた支援方法等のアドバイスを頂きました。

▲災害ボランティア活動支援プロジェクト会議のスタッフ

▲仮設団地内で打合せ

個人ボランティアの皆様

県内はもとより全国各地から個人ボランティアの皆様にもご支援を頂きました。これまでの経験や知識を生かして、災害ボランティアセンターの各班でそれぞれの役割を担いました。

▲資材車両班の皆様

▲全国各地から集まったボランティアの皆様

その他にも多くの団体・個人の皆様からご支援をいただきました。
大変ありがとうございました。

丸森町災害ボランティアセンター収支精算書

（単位：円）

勘定科目		決算額	摘要
収入	寄付金収入	7,835,000	支援寄付金、資機材等物品寄付
	共同募金配分金収入	27,000,000	災害準備金収入
	その他の補助金収入	1,000,000	大和福祉財団助成金
	町補助金収入	900,000	人件費補助
	サービス区分間繰入金	1,857,000	法人運営費より繰入収入
	その他の収入	599,000	ボランティアバス参加費収入等
	収入計	39,191,000	
支出	人件費支出	2,757,000	職員時間外勤務手当
	事業費支出	34,556,000	レンタカー代（バス、軽トラ他）、ガソリン代、資機材代、事務所管理費
	事務費支出	1,868,000	仮設トイレレンタル代 トイレくみ取り代他
	負担金	10,000	みやぎ災害救援ボランティアセンター団体会費
	支出計	39,191,000	
収支差額		0	

共同募金会では、災害の発生その他特別の事情があった場合に備えて、募金の一部を「災害準備金」として積み立てています。

今回、災害ボランティアセンターの活動拠点事務所支援資金として、拠点経費並びに災害ボランティア活動支援を目的として、配分金をいただきました。

ご支援ご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

2019年10月16日朝刊

台風死者 宮城13人

福島25人、岩手2人犠牲

被害拡大 救助続く

12日から13日にかけて東日本を縦断した台風19号による猛烈な雨の影響で、岩手、宮城、福島3県の人的被害は15日、河北新報社の集計で死者が計40人、行方不明者が10人前後に上っている。東北の洪水による住宅地などへの浸水は一部で解消しつつあるが、ライフラインの復旧が遅れている地域もある。警察や消防による救助・捜索活動は続き、住民らは土砂や被災した家財の撤去作業に追われた。

東北の死者は岩手2人、宮城13人（15日午後9時現在）、福島25人（同午前8時現在）の計40人。福島はいわき市内で救助作業中に東京消防庁のヘリコプターから落下した女性1人を含む。

大崎市鹿島台地区では宮城県大郷町で吉田川が決壊した影響で、下流域にある185世帯が水没したことが新たに判明。自衛隊や消防などが住宅に取り残された約50人を救出した。

宮城県丸森町の廻倉地区（11戸）では住宅1棟が土石流にのみ込まれ、90代、70代の女性ら4人が行方不明になっているという。

東北地方整備局によると、阿武隈川が氾濫した丸森町中心部の浸水は15日午前7時までに解消。町役場や町国民健康保険丸森病院の孤立状態も解消された。

福島では、郡山市などを通るJR水郡線の複数箇所で、橋の流失や傾斜などが確認された。復旧に長期間を要する見通しで、運転再開のめどは立っていない。

岩手では、三陸鉄道が複数区間で運休している。県内の停電は解消されたが、15日午後2時現在、約1700戸で断水している。

東北電力によると、東北6県で最大約11万9000戸に上った停電は99％が復旧。15日午後10時現在、宮城、福島両県の計約740戸の復旧を急いでいる。

土石流が発生した現場で捜索する警察官。中腹にあった住宅は基礎以外、流失した＝15日午後3時10分ごろ、宮城県丸森町子安地区

浸水した家財や瓦礫で道の両端が埋まった住宅街＝15日午前9時15分ごろ、宮城県大郷町粕川

2019年10月20日朝刊

死者 60歳以上8割

岩手・宮城・福島 自宅浸水で犠牲 多く

台風19号

上陸1週間

記録的な大雨と洪水に見舞われた台風19号の襲来から1週間が過ぎた。岩手、宮城、福島3県の死者48人について、年齢や身元が確認できた45人のうち60歳以上が35人と約8割を占めることが19日、河北新報社の集計で分かった。70歳以上は22人とほぼ半数に達した。

3県では12日夜から13日朝にかけて河川の氾濫が相次いだ。浸水した自宅で亡くなった人が多く、自力での避難が難しい高齢者の犠牲が浮き彫りとなった。

河北新報社の集計（19日現在）によると、東北の死者は福島30人、宮城16人、岩手2人。年齢などが判明した45人のうち7歳と10歳の小学生2人、20～50代8人、60～70代24人、80代以上は100歳2人を含め11人いた。男性は29人、女性は16人。

死亡時の状況別では、浸水したり土砂崩れで倒壊したりした自宅で発見されたのは19人。このうち70歳以上が14人と7割強に上った。平屋の自宅が浸水したり、自宅2階に避難できなかったりした高齢者が大半を占めた。13日に東京消防庁のヘリコプターから落下し、亡くなったいわき市の女性(77)も、浸水で孤立した住宅から救助中だった。

夜間に自宅や職場に向かう途中で河川に転落し、車ごと流されるなど移動中に亡くなったとみられる人は10人いた。

19日現在、東北の行方不明者は宮城県丸森町3人、福島県川内村1人の計4人。仙台市で見つかった2遺体のうち1人、宮城県丸森町で見つかった7遺体のうち2人の身元確認を急いでいる。

台風19号の襲来後、初めてまとまった雨が降った被災地＝19日午前10時ごろ、宮城県丸森町山崎

東北なお 2626人避難

激しい雨、再び避難も

東日本の広い範囲に甚大な被害をもたらした台風19号の影響などで岩手、宮城、福島3県の避難者は19日現在、河北新報社の集計で17市町村の2626人に上る。被災地は18日以降、前線を伴う低気圧の影響で激しい雨に見舞われ、再び避難所に身を寄せた住民も多い。避難の長期化が懸念され、被災者たちは疲労の色を濃くしている。

各県によると、19日午後1時現在の避難者は岩手が3市町に254人、宮城が5市町に640人、福島が9市町村に1732人。

市町村別では郡山市の554人が最多。いわき市の426人、本宮市の338人が続き、福島の被害の深刻さが浮き彫りとなった。

宮城は丸森町261人、大崎市162人、角田市125人など浸水被害が大きい地域で避難者が多い。岩手で避難者がいるのは宮古、久慈、山田の3市町。大雨に備え、前日の10人から急増した。

内閣府によると、全国で12都県の4646人が避難所での生活を余儀なくされている。

東北の死者は福島で1人増え48人となった。内訳は岩手2人、宮城16人、福島30人。宮城で3人、福島で1人が依然行方不明となっている。共同通信の集計では、全国の死者は12都県の79人で、行方不明者は10人とみられる。

東北電力によると19日午後4時現在、宮城県内の約120戸、福島県内の約30戸で停電が続く。

福島県は19日、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の避難者向けに整備した災害公営住宅のうち空き家の1390戸を、郡山やいわきなど7市に提供することを決めた。JR東日本は21日から、不通が続く東北線新白河―安積永盛、本宮―松川間で代行バスを運転する。

台風19号の死者数（行方不明者数）

宮城	16人（3人）
岩手	2人（0人）
福島	30人（1人）
東北	48人（4人）

（19日現在＝河北新報社調べ）

提供：河北新報社

3 災害時の支援体制について

全国の社会福祉協議会による支援

災害時相互支援協定に基づき、県内はもとより、北海道・東北ブロック及び中国・四国ブロック等、全国の社会福祉協議会より災害ボランティアセンターの運営支援のため職員の方々に来ていただきました。お忙しい中、職員を派遣してくださった県内外の社会福祉協議会の皆様には心から感謝申し上げます。

派遣一覧（内訳）

10月（延べ人数）

社協名	宮城県	岩沼市	山元町	蔵王町	山形県	山形市	尾花沢市	戸沢村	酒田市
人　数	25	23	26	20	8	8	5	5	6

11月（延べ人数）

社協名	宮城県	仙台市	塩釜市	名取市	多賀城市	岩沼市	東松島市	大崎市	蔵王町
人　数	89	14	13	3	10	34	5	28	44
社協名	七ヶ宿町	大河原町	村田町	亘理町	山元町	松島町	色麻町	加美町	涌谷町
人　数	7	22	35	38	55	4	4	2	4
社協名	美里町	南三陸町	山形県	山形市	酒田市	寒河江市	南陽市	上山市	鶴岡市
人　数	4	8	29	18	14	5	10	5	29
社協名	天童市	朝日町	新庄市	山辺町	東根市	三川町	村山市	戸沢村	秋田県
人　数	7	2	5	5	5	5	6	5	15
社協名	能代市	仙北市	北秋田市	五城目町	羽後町	愛媛県	伊方町	岡山県	岡山市
人　数	5	3	6	6	7	8	8	10	6
社協名	香川県	高知県	島根県	徳島県	鳥取県	広島県	広島市	山口県	米子市
人　数	7	14	13	6	5	10	10	10	4

12月（延べ人数）

社協名	宮城県	仙台市	石巻市	気仙沼市	名取市	多賀城市	岩沼市	大崎市	蔵王町
人　数	158	27	43	10	6	6	14	60	21
社協名	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	亘理町	山元町	七ヶ浜町	色麻町
人　数	11	19	12	16	15	21	22	5	8
社協名	加美町	涌谷町	美里町	山形県	山形市	酒田市	寒河江市	朝日町	上山市
人　数	6	8	8	22	12	10	2	2	5
社協名	鶴岡市	天童市	遊佐町	米沢市	舟形町	高畠町	秋田県	能代市	仙北市
人　数	4	2	6	6	5	6	46	5	2
社協名	愛媛県	海陽町	岡山県	岡山市	香川県	高知県	島根県	徳島県	鳥取県
人　数	12	6	5	4	6	12	8	6	5
社協名	広島県	広島市	山口県	東広島市	智頭町	倉敷市	高松市		
人　数	5	10	10	5	5	5	6		

1月（延べ人数）

社協名	宮城県	仙台市	石巻市	気仙沼市	名取市	岩沼市	登米市	栗原市
人　数	67	12	38	4	2	1	25	24
社協名	東松島市	大崎市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町
人　数	14	37	13	2	15	9	6	8
社協名	亘理町	山元町	大郷町	色麻町	加美町	涌谷町	美里町	女川町
人　数	11	22	14	8	8	4	8	9

2月（延べ人数）

社協名	宮城県	角田市	七ヶ宿町	大河原町	蔵王町	川崎町	亘理町	岩沼市
人　数	2	2	2	2	3	1	3	1

宮城県庁職員による支援

宮城県庁より災害ボランティアセンター立ち上げ準備段階から職員を派遣していただきました。お忙しいところ、職員を派遣してくださった宮城県の職員の皆様には心から感謝申し上げます。

期　間	1次派遣 10/18 ～ 10/24	2次派遣 10/25 ～ 10/31
延べ人数	20人	21人

応援職員の活動の様子

4 支援物資・支援金等提供者ご芳名

災害ボランティアセンター開設に係る土地・建物の提供一覧

令和元年東日本台風における丸森町災害ボランティアセンターの設置やボランティアの方々の車を停めるための駐車場と建物を無償で提供していただきました。誠にありがとうございました。

災害ボランティアセンター土地・建物

（敬称略・順不同）

旧アイユー地権者

海川　宗夫　　鎌田美喜子　　松野　清彦、千代子、徳昭
宍戸　善一　　目黒　　充　　齋藤　　傳　　菅野　義和

建物所有者

株式会社　アイユー

災害ボランティアセンター駐車場

（敬称略・順不同）

・伊具高等学校
・丸森中学校
・ほこだて仏光堂

支援物資・支援金等　提供一覧

令和元年東日本台風災害における心温まる支援物資並びに支援金等を、全国各地の皆様からお寄せいただき、誠にありがとうございました。

なお、お寄せいただきました支援物資・支援金等につきましては、丸森町内において被害を受けられた方への支援及び災害ボランティアセンターで必要な資機材の購入・運営費用等、本会が運営する認定こども園等で大切に使わせていただきました。

各町・県市区町村社会福祉協議会からの支援金及び支援物資

（敬称略・順不同）

- 尾花沢市社会福祉協議会
- 東広島市社会福祉協議会
- 福岡市長住校区社会福祉協議会
- 豊中市社会福祉協議会
- 西予市社会福祉協議会
- 岩沼市社会福祉協議会
- 石巻市社会福祉協議会
- 宮城県社会福祉協議会
- 新見市社会福祉協議会
- 遊佐町社会福祉協議会
- 岡山県社会福祉協議会
- 岡山市社会福祉協議会
- 大崎市社会福祉協議会
- 富士吉田市社会福祉協議会
- 利府町・利府町社会福祉協議会
- 栗原市社会福祉協議会
- 福山市社会福祉協議会
- 久米川町社会福祉協議会
- 一関市社会福祉協議会
- 美里町社会福祉協議会
- 白石市社会福祉協議会
- 吹田市社会福祉協議会　施設連絡会
- 大阪市大正区社会福祉協議会 手しごとの会
- 名取市社会福祉協議会

個人・団体等からの支援金及び支援物資

（敬称略・順不同）

- 村　井　　雄
- 藤　田　晃　江
- 佐々木　智　文
- 塚　野　恵　子
- 金　　由里子
- 佐　藤　清　悦
- 岩　満　晶　子
- 富　塚　功　吉
- 佐　藤　政　人
- 細　矢　弘　子
- 半　澤　とめよ
- 宮　田　一　郎
- 宮　田　三　郎
- 宮　田　文　夫
- 志　水　田鶴子
- 久　保　　進
- 簔　島　利　雄
- 中　村　千　春
- 太　田　世志恵
- 横　田　裕　一
- 大　木　美　貴
- 池　田　早　苗
- 伊庭野　一　夫
- い　ぶ　し　銀
- 千　鳥　照　夫
- 鈴　木　清　美
- 今　野　　清
- 小　室　きぬ代

・萩　原　一　郎
・菊　地　和　人
・野　口　雪　子
・加　藤　久　良
・菅　井　誠　吾
・古　澤　　聡（みどりの会）
・丸森町の力になりたい全国の方々　代表　小野　雄司
・ミヤザキ　ユキオ
・向　　瑞　代
・崎　山　　操
・小　島　善　明
・浅　川　玲　子
・山　越　隆太郎
・仲　川　喜代美
・佐々木　絵　里
・鈴　木　典　雄
・鹿　又　智　代
・梅　津　とめ子
・松　田　正　徳
・佐　藤　健　二
・三　宅　真　琴
・南　里　幸　江
・篠　崎　秀　昭
・齋　藤　心　葉
・斎　藤　貞　裕
・舟　木　延　晴
・岩　淵　久美子
・木　津　雄　一
・吉　田　キヨ子
・小　野　信　行
・鈴　木　あゆり
・前　田　充　恵
・津　島　智　人
・戸　村　哲　夫
・髙　野　ひろ子
・藤田　敦、博子
・鈴　木　　正
・島　津　信　子
・原　聡美、拓光、晃汰
・木　村　ひとみ
・八　東　華　子
・佐　藤　英　男
・徳　　満
・伊　藤　郁　子
・大　澤　直　子
・西　口　なおみ
・塩　田　隆　夫
・杉　森　　尚
・山　田　博　章
・八　島　　健
・中　村　　浩
・会　津　　泉
・竹　田　智　美
・みやぎ生活協同組合
・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社仙台支店仙南支社
・オカモト株式会社
・FSX株式会社
・株式会社アールエスエス
・楽天株式会社
・飯坂ホテルジュラク
・仙台秋保温泉ホテルきよ水
・スリーエムジャパン株式会社
・パリミキ
・株式会社エーブィテック
・徳武産業株式会社
・マツダ株式会社
・株式会社高速　宮城県南営業所
・弘進ゴム株式会社
・ケルヒャージャパン株式会社
・はるはなファーム株式会社
・ひかりのくに株式会社　仙台営業所
・グローバルマテリアルズエンジニアリング株式会社
・シダックスフードサービス株式会社
・株式会社チャイルド社
・寿司総合和食　味晴れ
・株式会社東北消防設備
・北海マテリアル株式会社
・株式会社浅井建築設計事務所
・明治安田生命保険相互会社
・泉州電業株式会社

・株式会社GM7
・大和リース株式会社　仙台支社
・日本たばこ産業株式会社　東北支社　仙台第２支店
・株式会社アークノハラ
・株式会社東洋
・白鳥設工
・株式会社井出工具
・株式会社エス・エイチ・アイ
・有限会社小野商店
・株式会社橋本店　舘矢間地区河道掘削作業所
・株式会社ドコモCS東北
・KDDI株式会社
・雪印種苗株式会社　環境緑化部
・エム・ビー・エス株式会社
・株式会社トーユー
・株式会社協和エクシオ
・株式会社テクニカルサービスオガワ
・ホテル原田
・特定非営利活動法人みやぎ災害救援ボランティアセンター
・特定非営利活動法人ADRAJapan
・特定非営利活動法人ジェン
・社会福祉法人ライフケア赤井江
・自主研究会「夢創造の会」
・一般社団法人情報レスキュー隊DART
・ヘルピングハンズ
・ボランティア支援の輪
・山形朝日町ボランティアの会
・全国コミュニティライフサポートセンター
・小野寺労務士事務所
・車田正光公認会計事務所
・だんごの会
・ライオンズクラブ国際協会　茨木堺ライオンズクラブ
・仙台市立宮城野小学校　若萩児童会
・カトリック北仙台協会
・特定非営利活動法人フェローズウィル
・東北福祉大学千年塾
・石巻市立湊中学校
・宮城県障がい者福祉協会　仙南地方連絡協議会
・川崎町身体障がい者福祉協会
・仙南保育所連合会
・お互いさまネット　オリーブ
・みやぎおかみ会
・学校法人まゆみ学園
・小牧市職員組合
・丸森町自然薯研究会
・江東ボランティア連絡会
・丸森地区子ども会育成会
・一般社団法人名取市観光物産協会ゆりあげ港朝市協同組合
・山元町商業グループ福幸やまもと
・柴田町身体障害者福祉協会
・JAみやぎ女性組織協議会
・黒豆プロジェクト　代表　森園枝
・呉広域商工会青年部川尻支部
・福山市赤十字奉仕団
・（宗）真如苑
・聖光学院高等学校
・啓明宮城小学校
・JR東日本労働組合仙台地方本部
・Enabu
・一般社団法人てあわせ
・丸森ライオンズクラブ
・新金岡センター保育園
・ぼーだれすアートクラブBACせんだい
・第一光の子保育園
・第二光の子保育園
・まるもりデザイン
・一般社団法人生命保険協会宮城県協会
・サポート石巻　代表　佐藤晃子
・仙南地方労働者福祉協議会
・軽トラでゆこうプロジェクト　代表　新川泰道
・わすれな草と愉快な仲間たち
・伊具高等学校文化祭実行委員会
・仙台市立東仙台小学校まつば児童会
・特定非営利活動法人エムズパワー
・夢ネット大船渡　代表　岩城泰治
・一般社団法人まちづくりやまもと
・非営利団体ONIGIRI
・富津シティロータリークラブ
・中台地域センター明るい選挙推進委員会
・全国PHP友の会

・福島学院大学　齋藤智浩
・かけはし信託愛の基金　理事長　若林辰雄
・一般社団法人愛知揖一福祉振興会
・民謡伴奏連会尺八　佐藤紘湖連
・日本基督教団兵庫教区　被災者生活支援　長田センター
・第１回丸舘中学校丸森地区卒業生代表　大槻和夫
・蔵王町身体障害者福祉協会
・大河原町身体障害者福祉協会
・村田町身体障害者福祉協会
・七ヶ宿町身体障害者福祉協会

その他、多くの個人、団体の方々などから
ご支援・ご協力頂いております。
誠にありがとうございました。

5 災害ボランティア活動の振り返り

令和元年東日本台風振り返り会

令和２年６月26日（金）　元災害ボランティアセンター（旧アイユー店舗）にて開催

出席者　（順不同　敬称略）

丸森町役場　保健福祉課	課長補佐	大　石　　勝
社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会　みやぎボランティア総合センター		
	所　　長	稲　邊　康　宏
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援Ｐ）		千川原　公　彦
		菅　原　清　香
一般社団法人 OPEN JAPAN（OJ）		手　代　千　賀
		福　地　波宇郎
一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY（YC）		八　巻　眞　由
		信　岡　萌　美
社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会	事務局長	谷　津　俊　幸
	主　　任	伊　東　圭　太
	福祉活動専門員	加　藤　一　聖

丸森町社協　谷津「こんにちは、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。久しぶりの再会でうれしく思います。皆様には昨年10月の台風19号における災害ボランティアセンターの立ち上げから長い時間にわたり業務に携わっていただきましたことに改めて心から感謝と御礼を申し上げます。3月以降は新型コロナの影響でボランティアの受入休止という状況となりまして、先行きが見通せない苦悩の日々が続きましたが、4月になってボランティアのニーズも数えるほどになりまして、お知らせしたとおり災害ボランティアセンターは4月30日をもって看板を下ろしました。その後、その業務は丸森町社会福祉協議会の事業で引き継ぎ、コロナの状況、推移をうかがってきたところであります。このところコロナウイルス対策の外出、イベントの自粛要請も緩和方向となってきましたので、町民のボランティアを募りながら、OPEN JAPANや県内社協関係の方のお力をお借りして残ニーズへの対応を行っております。皆様には今後もいろいろな面でお世話になることが多いと思います。今後ともご支援ご協力の程宜しくお願い致します。本日は振り返りの会ということで社協にとっては反省点だらけだと思っておりますが、今後に生かすためにも皆様からは忌憚のないご意見、お話を聞かせて頂ければと思っております。宜しくお願いします。」

災害ボランティアセンターの初動について ～発災からボランティア受入まで～

丸森町社協　伊東「今回の災ボラ立ち上げについては、常日頃からの準備がいかに大切かということが思い知らされました。災ボラというものに対してある程度は準備をしていたものの、資機材に関してはスコップ５、６本、発電機や長靴などが数個ありましたが、全て被災してしまい資機材もゼロというところからのスタートでした。資機材集め、人材の確保なども皆様の力がなければできなかったことでした。特に初動時に関しては、県社協、支援Ｐ、YOMOYAMA COMPANY、OPEN JAPAN皆さんの協力があり何とかやってきました。特に県社協が中心となり協定に基づいた職員の派遣など社会福祉協議会の横のつながりの強さを改めて感じました。災ボラ設置についてはまず場所選びから難航しました。初めは町民体育館に設置と言われましたが、数百人来るであろうボランティアを受け入れることは不可能であり、皆さんのアイディアと地権者の方の協力でこのスーパー店舗跡地を使用することが出来ました。災ボラを設置するのは好立地の場所でしたが、水も電気も通っておらず、準備に時間がかかってしまいました。最初は内部の調整に追われているような感じであり、本来必要な外に出て被害の状況を確認するということが全くできていなかったため、現場と依頼内容のズレなどで住民、ボランティアにはご迷惑をおかけしてしまいました。地区の自主防災レベルでは訓練等をしていましたが、今回のような大規模な災害に対しては、外部からの支援を受け入れるという部分に置いて町も社協も住民も準備不足であったように感じました。」

丸森町役場　大石「災ボラの立ち上げに関しては社協と一緒に行ってきましたが、最初の場所の選定で町民体育館を選んでしまったという、今考えるとどうなっていたんだろうなという思いもあります。実際には動線も悪く、ホール部分は支援物資でいっぱいになり、ボランティアの受入は難しかったと思います。10月15日に水が引いたばかりの泥だらけの社協事務所で最初の打ち合わせを行いましたが、前提として災ボラの立ち上げを町と一緒に行う社協事務所が浸水する部分にあるというのはどうなのだろうか、役場や社協が浸水することも想定しておかなければなりませんでしたが、それでもあの状況は初動において痛かったなと。。。ただそういった中で、16日には皆さんの助言と社協の動きによって現在のスーパー跡地を借りることが出来ました。役場として物資の準備のほかにウォータータンクや仮設トイレを設置できるように急ぎ手配をしました。マイクロバスや駐車場の確保などを初動はバタバタとしながら進んでいたように感じます。若干の遅れはあったもののあの状況においてはかなり早い段階で災ボラの立ち上げが出来たように思います。」

県社協　稲邊「県社協としては県内各市町村の被害状況の確認を行いました。なかなか角田市、丸森町には入れない状況が続き16日にやっと丸森町に入り、関係団体の方から話を聞きながら丸森の支援に入らせてもらいました。奇跡的にスーパー跡地という好条件の場所が見つかり、本来19日から受入をするはずだったところ、雨のため中止になったことで準備の時間が少しとれたのは不幸中の幸いだったのではないかと感じました。県内の被害状況の全容は直ぐにはつかめていなかったものの酷いのは大郷、大崎、丸森、角田が被害が大きいぞということになりましたが、白石などは県内で一番早く災ボラを立ち上げていました。15日に県社協の及川次長が角田、丸森の状況を見て、全国社会福祉協議会へ連絡を行い災害ボランティア活動支援会議プロジェクトへ15日の時点で要請をかけています。県内の社協には18日の段階で被害の軽微な社協については応援をお願いしたい旨を伝え、県内だけでは対応できない為北海道東北ブロックに同じく18日に要請を掛け25日から職員を派遣して頂きました。そのほかに圏域会議というものも併せて行っており、県の災害ボランティアセンターが10月16日に設置され、その日から毎日、仙台で県内のボランティア

センターの状況について会議を行い県内の大学などへのボランティア要請も始めていました。」

OJ　手代「まずはじめに、私たちは外部団体ということで、怪しい風貌で突然入ってきたのにもかかわらず受け入れて下さりありがとうございました。私たちは発災直後、石巻にあった事務所が浸水し、少し様子を見ている中で、15日に丸森に入らせていただきました。最初の方、メンバーの中でも場所についてはこの場所が使えてホントに良かったねというところから、断水地域へのタンクローリーでの給水、仮設トイレの設置をしていただいたおかげで、現地で活動しやすかったです、また、経験のある応援社協の方が来てくれたおかげで初期のボランティアセンターの形作りがスムーズに行われたように感じました。」

OJ　福地「私は佐賀で、事務所が浸水したことを聞き、宮城県どうしようと考えた中で丸森が一番交通のアクセスが悪くボランティアの受入がどうなるんだろうねと言った観点の中で、入らせてもらいました。経験のある社協職員の方が応援に来て下さる中で内部としても地元の社協として、現地調査など細かい動きでニーズを拾ってきてくださり、細かな情報を伝えてくれ顔つなぎをしてくれることで活動がしやすく、地元社協の職員の名前を出すと、「じゃあじゃあ」と住民さんも受け入れやすくなったりとそのあたりはすごく連携が取れていたなと思います。あと、各まちづくりセンターの機能もすごくしっかりしていて、土地が広いため私たちもどう活動すればいいかと思っていましたが、まちづくりセンターが地域の窓口になってくれたおかげで、より円滑に私たちが活動できた一助になったのではないかと感じました。」

支援P　千川原「発災してから数日間はなかなか丸森には入れなかったのですが、県社協と一緒に動いて作戦会議を行ってきました。初動について、いいところも多かったと思うのですが、あえて課題を挙げるのであれば、人材の所が少なかったかなと。。。何とか県社協さんが人員を集めようと奔走して頂いていましたが、今まで何カ所か災害ボランティアセンターに入った肌感覚ですが、丸森のボラセンの場合は最低30人から40人の人材が必要だと感じていました。最初の段階から県社協さんとはそのことを話し合っていたのですが、いかんせん、最初のうちは20人とかで多く応援社協さんが来ていただいたときはどうしても日替わりになってしまいなかなか班の形が定まりませんでした。組織の体制がなかなか固まらなかった一方で、我々やOPEN JAPAN、YOMOYAMA COMPANYなど側面的に支援する方はいましたが、実動してくれる方が少なかったので毎日いろんなトラブルがあり、処理が追いつかず、次の日、次の日と積み重なってしまいました。そのうちに大きなトラブルになってしまい、現場でスタッフ同士が怒鳴りあいになってしまうなどの人間関係の悪化などが後々まで尾を引いてしまったなと感じましたし、皆さんの優しさや配慮でなんとか形を保っていましたが、どうしても11月頭頃まではかなり混乱してしまっていました。それぞれが怒りを持っていたり、夜も眠れないなんて状況が続きていたように感じました。今後、同時に被災してなかなか人が集まれないということも多くなってくるのではないか、そうなってくると社協のネットワークプラス民間のNPOのネットワークで初動の人材体制を作る方法も必要になってくるのではないかと感じました。」

YC　八巻「15日の朝一には社協に向かい、災ボラを一緒にやりたいことを谷津局長に伝え、大石補佐とも相談し、災ボラの立ち上げを一緒にすることとなりました。YOMOYAMAとしては14日

の時点で役場と相談し、ネット上にあふれる物資の調整を行っていました。15日時点で当時SNSの情報が錯そうしていたため、役場と社協と共有している公式の情報ですということで情報発信をしており、ボランティアの事前登録なども行っていました。17日に公式のツイッターとフェイスブックの立ち上げを行い、18日に学生を集めてボランティアセンターの掃除などを行ない、19日から炊き出しの調整も町内の飲食店の方から引き継ぎ、それと合わせて地域に配布するニーズチラシの第１版の作成も行っていました。各まちセンにチラシを置かせてもらいボラセンに電話が設置されたのでその対応などもYOMOYAMAが担っていました。Gmailでのメルマガ発信やセンター内の案内表示の作成も行っていました。初動として良かったことはスピード感があったことYOMOYAMA COMPANYは災害支援の知識が全くない中で東日本大震災の経験者の方たちとの繋がりがありその方たちからの助けがあって何とかやってこれました。そして自分たちが地元の団体だったことが何よりも強みだったのではないかなと、ボラセンの場所についても前から地域づくりの拠点に良いのではないかと考えていたからこそ提案できましたし、町や社協の最低限の信頼なども得られたのではないかと思います。改善点としては災害の知識がなかったからこそやれたこと、できなかったことがあり、逆に初動のスピード感を落としていたのではないかなと感じることは多々ありました。落ち着いてからYOMOYAMA内で振り返りを行いましたが、やはり抜けているところも多く最初のうちからアーカイブを取っておけばよかったなと思ったり、自分たちがやらなくて良いところまでやってしまっていたのではないかなと感じる部分もありました。」

災害ボランティアセンター中盤から閉所まで

丸森町社協　伊東「なんとなく形が出来てきたように感じます。スタッフの充足に伴い今までは丸森社協はなかなか現場に行くことが出来ませんでしたが、このころから寄り添い班が出来て現場の確認からボランティア後の完了確認などに行けるようになってきていました。特に11月はボランティアの数もピークの時期であり、11月１日からの三連休では３日の日に900人を超えるなど、ボラバスなどの影響もありましたが多くの方にボランティアに来ていただくことが出来ました。しかし、ボランティア数が増えるにつれて、ボランティアの送り出しに時間がかかってしまうことが多い時期でもあり、OPEN JAPANのサポートのおかげで何とかなっていたような日々でした。また、この時期は丸森社協が地元の社協としてなかなか方針を決められなかった時期でもあります。当初、日常生活に関わる場所を優先していたにも関わらず、ボランティアさんが多いことから畑や田んぼなどにボランティアを送ってしまい優先順位がバラバラになるなど多くの方にご迷惑をかけてしまいました。さらに、スタッフ間の情報共有がうまくいかず、日替わりで来る職員の方にどう情報を共有していくか、前日の夕方ミーティングのホワイトボードを写真にとって各班に置く、各班で昨日の流れなどを朝確認してから活動を始めるなど様々な工夫を行っていました。終盤は自然にボランティアの数が減ってきたことと、町内の方々の力や住民さん自らの力で活動していく流れになってきたため社協としても軽トラの貸出や町民ボランティアの募集などに力を入れてきた時期になりました。そんな中、依頼数の減少などのに伴いそろそろ災害ボランティアの閉所も視野に入れようとしていた矢先に新型コロナウイルスの流行により、思うようにボランティアも集められず苦労する時期となりました。しかし、よく考えれば丸森町として少し落ち着いて考える時期になったのかなと今思えば感じます。」

丸森町役場　大石「仮設住宅支援のため私はなかなか災害ボランティアセンターに顔を出せなかっ

た時期が続いてしまいました。情報共有会議などに出席はしていましたが、保健福祉課だけでなく他の各課で災害ボランティアセンターともっと関わらなければならなかったと思いながらもいっぱいいっぱいでなかなかそれが出来ませんでした。逆に仮設への引っ越しのボランティアなどお願いすることが増えてしまいました。コロナウイルスの影響もありボランティアの受入が出来なくはなりましたが、伊東さんの言うように少し今後の丸森について考える時間が出来たのかなと今になれば思います。」

県社協　稲邊「人員の調整に奔走していた時期でした。日に日にボランティアの数が増えており、北海道・東北ブロックは当初11月頭で派遣が終了だったところ、延長してもらい中国・四国ブロックからの応援もありスタッフの人数が充足してきた時期でした。それまで、YOMOYAMAさんには電話での対応などを忙しい中、担って頂いていましたが、このころから総務班の方で電話対応などを引き継ぐことが出来、本来の情報発信に集中して頂けるようになったかなと思います。中盤期は人が少ないながらも工夫しながら、丸森、大郷に集中してもらいながら活動をしており、この時期が一番バランスが良かったように感じましたが､終盤期になると応援をいつまでお願いするのか、いつ閉所するのかという時期になってきた来たように感じました。年が明けてからは県社協と県内社協とで活動をしてきましたが、閉所のタイミングを決めるのが何よりも難しかったと思います。」

OJ　手代「11月ごろは人を割り振るので手一杯だったなと思います。３連休はボランティアバスの受入を金山で行っていましたが、行ったことのない地域ということもあり現場への距離感が分からず少しトラブルになったところがありました。前日遅くまでボランティアが入れるか確認をして下準備をしていたつもりでしたが、現地に入らないとやっぱり分からないことがあるなと、この３連休を通して改めて感じました。上林地区や竹谷地区は当初からOPEN JAPANとして入らせてもらっていた地域でしたが、資機材の部分で資機材班と調整がうまくいかず、何度かトラブルになってしまい申し訳なかったと思います。災ボラの運営は応援社協のほかにボランティアにも入っていただいていましたが、ボランティアの方に情報が伝わりづらかったり、夕方のミーティングにも積極的に参加してもらっていましたが､なかなか情報を伝えるのが難しいと感じてしまう場面も正直、多かったように感じました。炊き出しの調整や小斎の田んぼの藁撤去などをNPO主催という形でやったりもしていました。丸森社協の方々と密に連携を取れたおかげで細やかな、住民さんと一体となった活動が出来て良かったという声も多く聞かれた時期でほんとに地元社協さんの頑張りが出てきた時期だなと思いました。」

OJ　福地「一つ改善点を挙げるとするならば、応援社協の方が数日単位で変わっていく中でニーズの引継ぎなどがうまくいってなかったりなど、私たちの大工や重機案件など長期化するニーズがどうしてもいくつかあったのでそれが応援社協が変わると話が一度振り出しに戻ってしまうことがありました。後、これは内のミスの部分が多かったのですが、同じニーズ表が何枚もあってどれがどれの完了報告なのか分からなくなってしまったことが多々ありました。そこの整理の工夫と応援社協の間で繋げる何かがあるともっとスムーズだったかな。今までだと社協の隣に事務所を構えていましたが、今回はがっつり中で一緒にさせてもらっていました。そのため住民さんからもお前たちは社協なのかボランティアなのかどっ

ちなんだと言われることがありました。３者連携というよりも入り乱れている感じだったのでもう少しそのあたり役割の明確化など整理があってもよかったのかなと。。。その中でイニシアチブをとるのは丸森社協や応援社協の方にとってもらうというのが一つかたちとしては理想かなと。収束期にはコロナウイルスのこともありどうしてもボランティアに来たいという方もいましたが、OPEN JAPANとしてもそこはお断りをさせて頂き、長期滞在している約10名のメンバーでの活動をしていく中で、今町内ボランティアの呼びかけなど行っているということですが、今後、こう言った状況で細分化した町の中で自分たちのボランティアチームを作って活動していくことが何かの糸口になるのではないかと考えます。」

支援Ｐ　千川原「他の現場では外に行くことが多かったのですが、今回は内部の調整をしなければならず、なかなか現場に出ることが出来ませんでした。そのため現場と内部の状況をつなぐことができなかったことが今回の反省点です。ただ､ならば内部は良かったのかと言えばそうではなくて、先程稲邊さんがおっしゃっていたのですが、応援社協の方々が増えて安定してきたのですが、災害ボランティアセンターはやろうと思えばどこまでも際限なしにできるので、どこまでやるのかの線引きが難しかったと思っています。逆に何も考えなければ午前中のバタつきが終わったら午後は暇になってしまうという方もいて、スタッフ間の温度差をどうしたら詰めることが出来たのだろうかということが僕の中での反省点でした。」

YC　八巻「11月15日に総務班の方に電話対応を引き継いでおり、YOMOYAMA COMPANYとしても本業がある方もいたのでどんどん人が少なくなって、主に外への発信が多かったのでボラセンの中で目に見える活動がなかったなと感じていました。また、YOMOYAMA COMPANYとして資金もなくなってきたので同時に来年度の資金集めなどボラセン内にいるが、ボラセンの中での活動がなく外部とのやりとりが多かった中盤期のYOMOYAMAの活動でした。そんな中で応援社協の方が増えて、YOMOYAMAが何をやっているか分からないなどと言われたこともあり、つらい時期でした。同時にボラセンのルーティンが確立されていく中で、外部の災害支援のプロフェッショナルの方々にとって、地元の若者の団体というのはとても魅力的だったのか、これをしなければいけないなどいろいろ言われる中でメンバーも減っていき勝手に期待して、勝手にがっかりされることが多い時期でした。ボラセンの業務としては主に情報発信をしていましたが、私たちはデスクワークが多かったので、なかなか現場の情報を得ることが出来なくて、ボランティアが本当に欲しい情報を集めて発信することが出来ませんでした。オフィシャルな情報発信と日常の活動の発信は全然違うものだと感じました。どちらも片手間でできることではありません。私たちはもともと地域のまちづくりのことを考えていた団体で災害時の中でも未来のことを考えていた。毎日毎日バタバタした日常の中でなかなか未来に通じていくようなソフトな部分は目に見えないよなとあの時YOMOYAMAはどのように動けばよかったのかなと情報共有会議は続けていたので、災害の大きな動きが収束していくにつれてこれから住民主体の町づくりにどう移行していこうかなというところに入ったと思うので、ここから大きな役割になってくるのかなと思いつつあの時どうしたらよかったのかとすごく悩んでいた時期だったなと思います。」

YC　信岡「YOMOYAMAが何をしたかというとネットワークで人を繋いでこれたかなと思います。今コロナが流行していろんなことで不足している中でオンラインで大学生が丸森を支援したいという話があってそれをつないだり、これまで支援した人からするとコロナで今までしてきたことが閉ざされたような気がしているとの話もあったのでそちらのケアに少しは役立っているのかなと思っています。今後の各地で災害が起きた場合、社協のつながりだけではカバーしきれないところで人

材が足りないということは毎回言われると思うので、オンラインでのサポートの仕組みも作っていかないと今後の災害には対応できないのではないかと思います。」

今後の災害への備え

県社協　稲邊「全社協から県社協に要請が来ておりまして、自治体要請をしてほしいと…災害が起きた時に社協が災ボラを立ち上げるのは、ほぼほぼ色々なところで協定が結ばれておりまして、自治体としても社協が立ち上げる災害ボランティアに支援をするように要請してくれと…具体的にどんな支援かというと、人、モノ、金なので県社協として宮城県の方にボラセンを立ち上げる時に金をつけてくれ、人をつけてくれということを要望で出しています。なおかつ各市町村社協にも各自治体に対して同じような要請をしてほしいといった流れで現在企画中です。自治体の方でもそのような予算取りをお願いしたいということです。これは全国的なものなので全社協は国の方に災害救助法の中に福祉という文言を入れて福祉関係のものをしっかりと法律に位置づけてほしいと、今どこの都道府県も災害ボランティアイコール社協となってきているので、それはイコール福祉なので災害救助法の中に適用すれば災ボラ運営のための補助金なり、助成金なりいわゆる法律に基づいた財源根拠が出来るのではないかと画策しているところでした。現在全国的にそういった動きがあるということをお知らせしておきます。次に災害が起きた時ですが、ぜひ行政では土嚢袋ぐらいは独自で準備できるぐらいの予算立てはしておいてほしいなと、住民も土嚢袋ないですかと災ボラに来ますし、本当は災害救助法の中に住宅地の撤去ってあるじゃないですか、確か災害が起きてから２週間だったか20日以内に撤去する場合に一住宅13万９千円の予算立てができる。本来であればその中に撤去なので土嚢袋も含まれるはず、重機だけではかききれないところがあれば手作業で取らなければならないはずなので、その時の土嚢袋ぐらいは予算立て出来るような気がするんです。そういった意味も含めて独自で災害備蓄品の中に土嚢袋というのも少し多めに用意してもらって住民に配ったり、災害ボランティアセンターにおいて住民さんはここから持って行っていいようにするなどしてほしいと思います。どの社協もですが、土嚢袋は用意してもすぐにはけてしまいます。ただ何十万枚にもなるとストックしておく場所もないと対応できません。そこで自治体の方である程度災ボラの分ということで確保してもらうなどしてもらえると助かります。」

丸森町社協　谷津「今までだと消防防災の観点では備蓄はあるはずですが、福祉関係ではなかなか備蓄できていなかったと思います。今後、災害が起こるときに備えはしてほしいと思います。」

支援Ｐ　千川原「モノという部分だと、いま災ボラに資機材残ってますよね。それらの今後の行先はどのようにお考えですか？」

丸森町社協　加藤「今のところ県外郵送での返却を考えており県内社協については返却が出来ております。ただ、丸森社協で買った分の資機材に関しては災ボラの一角を借りて保管するしかないかなと思っております。」

支援Ｐ　千川原「県内ですと大崎社協と柴田社協、船形コロニーに資機材のストックヤードがあっ

て、今まで山形もそれを頼りにしていたところがあったんですけど・・・」
県社協　稲邊「船形コロニーがなくなったので、現在ストックヤードは県内２箇所になります。」
支援Ｐ　千川原「そうですよね。そうなるとせっかく資機材が集まってるので少しもったいないかなと、丸森町とは限らずどこかにストックできる場所ってないのでしょうか？」
丸森町社協　谷津「次のことを考えるとこのスーパー跡地を借りておければよいのでしょうけどなかなか社協としてはそれも難しく…」
支援Ｐ　千川原「スペースの部分で役場の方で何かサポートとかはありませんか？空き部屋とか空き倉庫など」
丸森町役場　大石「実は役場の災害関係の物資の置き場所にも困っておりまして、町内の空いてるところを探してるのですがなかなか」
ＯＪ　福地「いまある丸森社協の資機材の数ぐらいなら、各まちづくりセンターに置かせてもらうってのはどうでしょうか？感染症などの流行で今後一ヶ所に集まれない中での災ボラとなったとき各まちづくりセンターをサテライト化するというのも一つの手だと思います。今回の筆甫地区のようにあそこで使う資機材はずっとまちセンに置かせてもらっていたのでその形が全地区でできたら理想かもしれません。どうしても山の人たちは孤立してしまうことが多いので、そこに資機材があるってことが重要かと思います。結構自分たちでなんでもする人が多いので、道具さえあれば何とかなる場合もあると思いますし、ボランティアを乗せて、更に資機材運んでとなると時間がかかってしまいます。」
丸森町社協　谷津「今後各まちづくりセンターと話し合い、連携できる体制づくりを作っていきたいと社協では考えています。」
丸森町社協　加藤「今回、筆甫まちづくりセンターでは孤立している中、住民組織で被害状況の確認やルートの確保をしており、今回災ボラとして一緒に動かさせて頂いて資機材やボランティアの送り出しなど、距離があるので一回ごとの人数は少なかったのですが、計画的に活動が出来たように思います。丸森町は広大なので各地区の拠点との平時からのつながりづくりが今後の社協の活動としても重要になってくると考えています。今回の経験を踏まえ各まちづくりセンターとの連携強化、そして、被害の少なかった地域の方からボランティアをしたかったがやり方が分からなくてなどという言葉もあったので町内の力を生かす仕組み作りも考えて備えていかなければならないと思っているところです。」
支援Ｐ　千川原「各まちづくりセンターで災害ボランティアセンター設置訓練などコンパクトにできると良いかもしれませんね。その後どこまでならウェルカムなのかとか、資機材を置いておいてもよいなどの話し合いもしやすくなるかもしれませんね。」
ＯＪ　手代「それがそのまま自主防災にも繋がっていくと思います。」
丸森町社協　加藤「災害ボランティアセンターやボランティアについて、そもそもよく分からないって方は当初多かったように思います。お金は掛かるのか、お菓子など用意しなければいけないなど、設置訓練も含めて災害ボランティアセンターを知る機会があれば、ボランティアを受け入れやすい、送り出しがしやすくなると思います。」
ＯＪ　福地「今までに出たことではありますが、体制やスキーム作りだと思うんです。丸森町はまちづくりセンター含め自助の力がとてもある町だなと、他の地域ではなかなかここまで地区ごとにアクティブに動いているところはなかったし、YOMOYAMAのような若い団体も町内にある、これは丸森町の大きな財産だと思います。今後、これらをどう組み立てて住民含め繋いでいくかが大

切になってくるのではないかなと思います。」

支援Ｐ　千川原「支援力であったり人材など、資源といったら少し硬い表現ですが、丸森町はそう言ったものがたくさんあったのではないかと思います。ただ、災害ボランティアセンターの運営という話になってくるとなかなか関わる人も少なくなっていき、ただ人材はたくさんいるはずなので登録制なんかも良いのではないかと、他の市町村社協なんかを見ると外部のボランティアを頼るのもいいんですけど自分たちの市町の中で住民に関わってもらえるような形で災害ボランティアセンター協力者登録みたいなそんな形で年に一回研修なんかに来てもらってみたいな、義務ではなく、余裕があったらぜひ運営者として関わってくださいという方法を取っている社協もありますのでそう言った仕組みを少し導入してもいいのではないかと思います。」

丸森町社協　加藤「丸森町社協として、現在町民ボランティアの募集を行っています。チラシでの呼びかけだけで、数名の方ですが登録をしていただいております。今後各まちづくりセンターを会場に研修会などを開催して人材の育成も出来たらと計画しています。」

YC　八巻「災害分野で今後一番中心になってくることは情報共有会議だと思うんですけど、現在支援者のための会議になってきています。住民の方もたまに入っていただいていますが、なかなか参加するには敷居が高くなってしまったように感じます。今後、役場とかと相談しながら全町民が参加できるような震災後にあったみらい会議のような今後、町をどうしていくかなどいろんな形で使えるような敷居が低くて出入りの自由な場を新しく一つ作ろうかなと考えています。今のコロナの感じだと情報共有会議をそのまま移行するような形になるかなとその場で学びを深めたり、町民が自分の手で何かしたいとなった時にそれをいろんな知識を持っている人で支援していけるような仕組みづくりをしていきたいと思っています。丸森町はリソースとしてはある方だと思うんですよ。それが繋がりあって生かせるような形になればなと思っていて、物理的に広いってのもあるんですけどまちづくりセンターという住民自治組織が機能しているからこそまちセンとまちセンは断絶していたりなど横のつながりも育てていく必要があるし、自分の町のことは自分で担うんだという意識を持てるような町づくりをしていきたいと思っています。」

支援Ｐ　菅原「ボラセンからは離れてしまいますが、丸森はもともと大雨が降ることが多いので、防災ってところが地域の大きな課題になってくるのではないかなと思うので、地域住民の防災力を高めることもこれから大事にしていかなければならないのではないかなと思います。たとえば大崎市社協では５年前の関東東北豪雨の時から続けていることなんですけど、年に一回福祉防災の集いというのを開催しており、フォーラムや防災グッズの体験など学校や公民館と連携して開催したりもしているので、今なかなか集まることが難しいですが、そういったものを開催するのもよいのではないかと思います。」

支援Ｐ　千川原「最初に誰に声を掛けたらよいかというリストがあると良いですよね」

OJ　手代「他の自治体で今まで関わったNPOなど外部支援者をリスト化してるところもありますよね。」

支援Ｐ　千川原「資機材のリスト表のように人のリストがあるところも最近多くなってきましたよね。」

OJ　手代「前に佐賀にいた時の話なんですが、佐賀では自衛隊が町の中のゴミ回収をしていてこんなことまでやるんだと思っていました。今回もやってくれるもんだと思っていたら実際にはなかったので自衛隊の動きもいろいろあるんだろうなと自分も勉強不足なところがありましたが、町や社協がいろいろ呼びかけたり話をすることで、いろいろ支援がでてくるんではないかなと思います。」

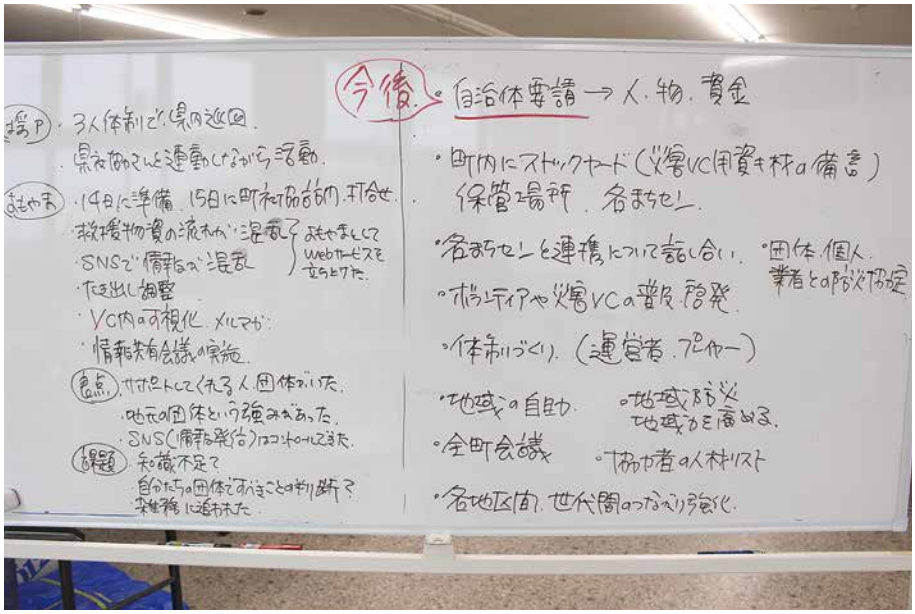
丸森町社協　加藤「確かに今回ゴミの搬出に人と車両がさかれてしまってなかなか作業が進まなかったところもあったので、そう言った支援があるのならぜひ連携していきたいですね。」

支援Ｐ　千川原「防災協定を結んでいる業者と役場の場合があると思いますが、それの社協版があってもいいのかもしれませんね。役場が防災協定を結んでる業者がいて今回発災の時にいろいろ打診されたと思うのですが、割合動きやすかったとか集まりにくいとかありましたか？」

丸森町役場　大石「ベッドとか食の関係は割とスムーズに入ってきたのかなと思います。事前に協定を結んでおくことは大事だと思うので今後その輪を広げていかなければならないと考えているところです。」

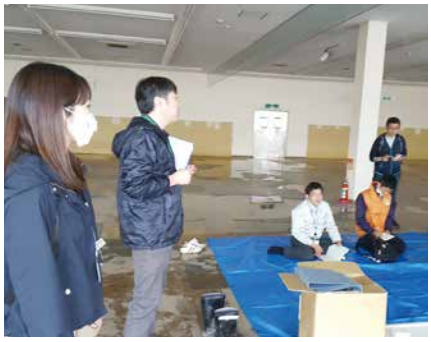
丸森町社協　谷津「長時間にわたりありがとうございます。今回の災害ボランティアセンターの経験を丸森町社協としても振り返りながら、無いことが一番ですが次の災害に生かせていければと思います。今日は皆さんどうもありがとうございました。」

※この文面は振り返り会の様子を録音したものを文字に起こしたものです。加筆修正していませんので、分かりづらい点もあるかと思いますがご了承ください。



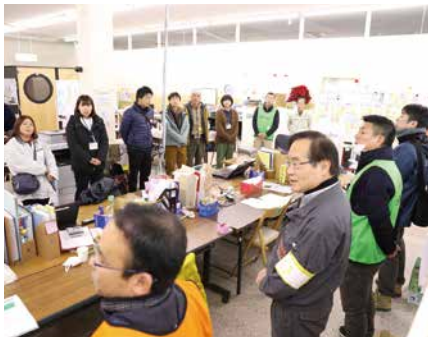
活動風景の写真等

10月



10月

11月



11月

ニーズ到
○今日の引継ぎ事項

大崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター

STAFF

南三陸町
社会福祉協議会
スタッフ
南三陸町
社会福祉協議会

11月

11月

11月

12月

12月

12月

1月～

1月～

1月～

1月～

1月～

むすびに

社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会
常務理事兼事務局長　**谷　津　俊　幸**

昨年、９月に事務局長に就任させていただき、その後一か月足らずのうちに10月12日の台風来襲により丸森町は未曽有の被害に見舞われました。10名以上の尊い命が犠牲となり家屋、道路、河川などに甚大な被害が生じ、町政史上最悪の大災害になってしまいました。そのような中、災害対策について町担当部署との協議も中々進まないところで、いまだかつて経験したことのない災害ボランティアセンターの設置運営を担うこととなりました。最初の頃は、すべてが初体験であり戸惑う日々でしたが、県内の社会福祉協議会をはじめ全国の社協職員の皆様、そのほかにも多くの団体、支援者の方々に多大なるご支援をいただきながら、延べ16,000人を超えるボランティアを受け入れ被災された住民の方々のもとへと派遣させていただきました。

県内外の個人、企業、団体のほかに海外からも多くのボランティアの方々が丸森町と町民のいち早い復興を目指しご尽力いただきましたことに対し、改めて深く感謝と御礼を申し上げます。

皆様の支援に支えられボランティア活動を展開してきましたが、今年の春先になって新型コロナウイルス感染症の拡大の問題も重なり思うようにボランティア活動が進まない状況が続きました。最終的には町内のボランティアの方々のお力もお借りしながら、何とか４月30日の災害ボランティアセンターの閉所を迎えることができました。

今後は、今回の経験と強い絆を次に生かしていくことはもちろんのこと、この報告書作成を通して明らかになった反省点を職員一同胸にしっかりと刻みながら、もしもの時は、より円滑なボランティアセンター運営ができるよう常日頃からの準備体制の構築に努めていきたいと考えています。

最後になりましたが、ご支援いただいた皆様方には、いくら感謝しても感謝しきれないと感じています。本当に、本当にありがとうございました。

丸森町災害ボランティアセンター運営報告書

～いぐいぐ丸森!!みんなの絆～

発　行　日	令和２年12月１日
発　行　者	社会福祉法人 丸森町社会福祉協議会 〒981-2152　宮城県伊具郡丸森町字鳥屋55-1 TEL 0224-72-2241
企画・編集	企画委員会

丸森町社会福祉協議会
マスコットキャラクター
うぐたん